

## IV 調査結果

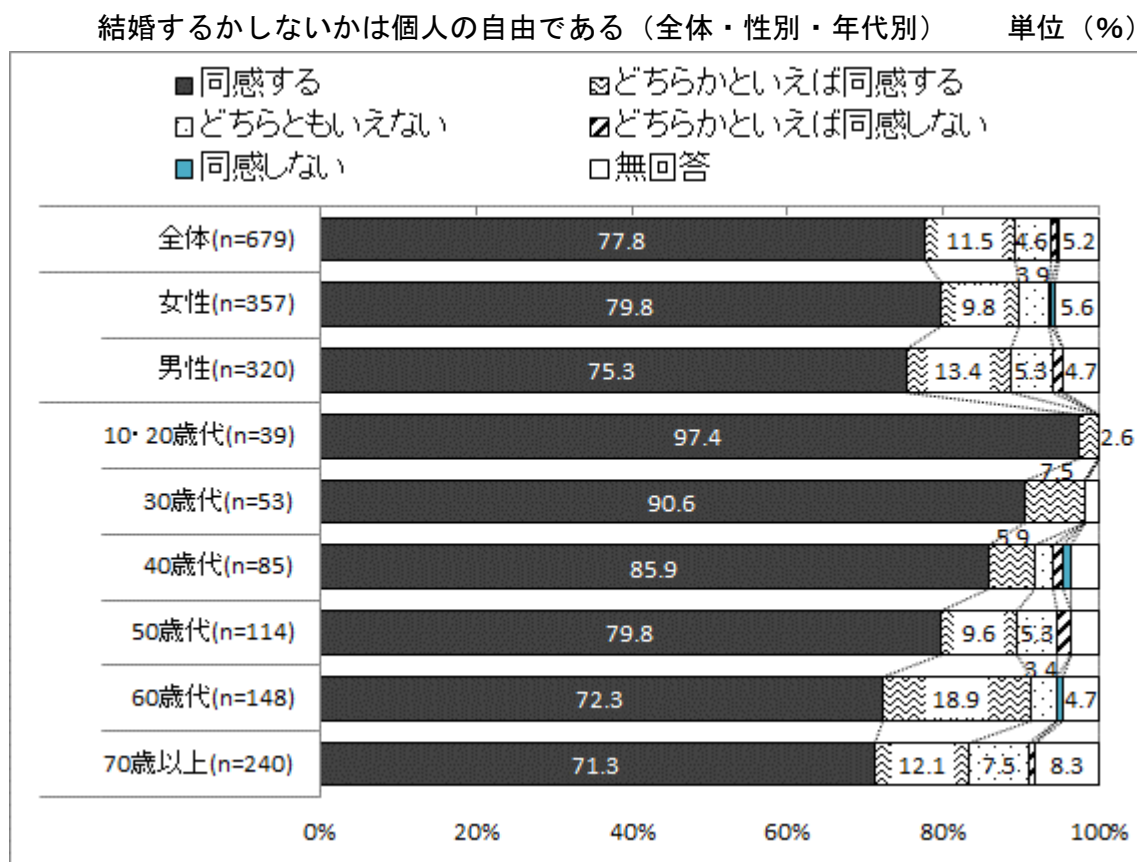
### □ 家庭や子育てについて

#### 問7 結婚観、家庭観に関する意識について

あなたは、結婚、家庭、離婚についてどのように考えますか。下の選択肢から1つ選んで番号を記入してください。

#### ① 結婚するかしないかは個人の自由である。

⇒ 「結婚するかしないかは個人の自由である」に同感する方が約89%



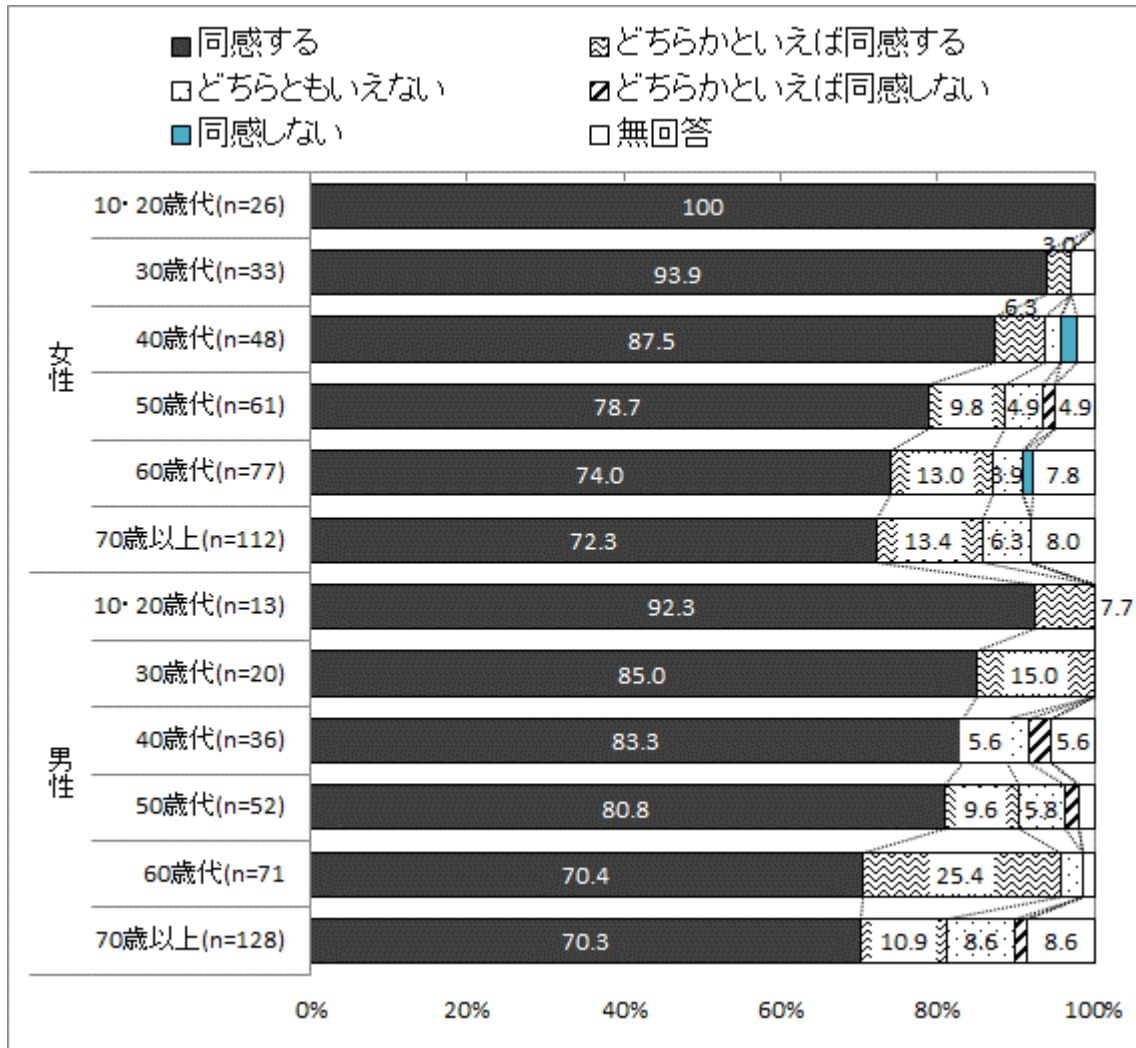
「結婚するかしないかは個人の自由である」という考え方について聞いたところ、全体では、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合が89.3%と高い傾向が見られた。

性別で見ると、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合は、女性で89.6%、男性で88.7%となっている。

年代別で見ると、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合は、各年代で高い傾向にあり、10・20歳代では100%となっている。

結婚するかしないかは個人の自由である（性×年代別）

単位（％）



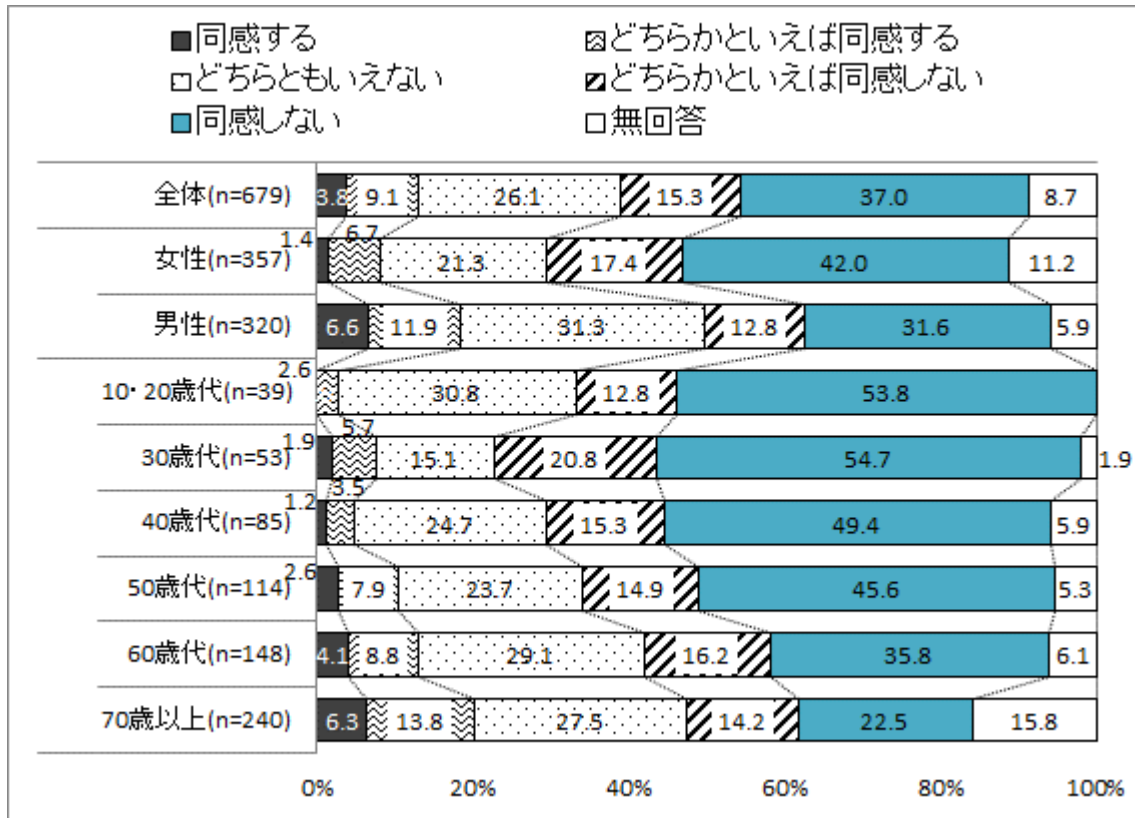
性×年代別で見ると、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合が、女性の10・20歳代、男性の10・20歳代及び30歳代で100%となるなど、各年代においても80%を超える高い割合となっている。

② 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」だと思う。

⇒ 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」に同感しない方の割合約52%

夫は外で働き、妻は家庭を守るべき（全体・性別・年代別）

単位（%）



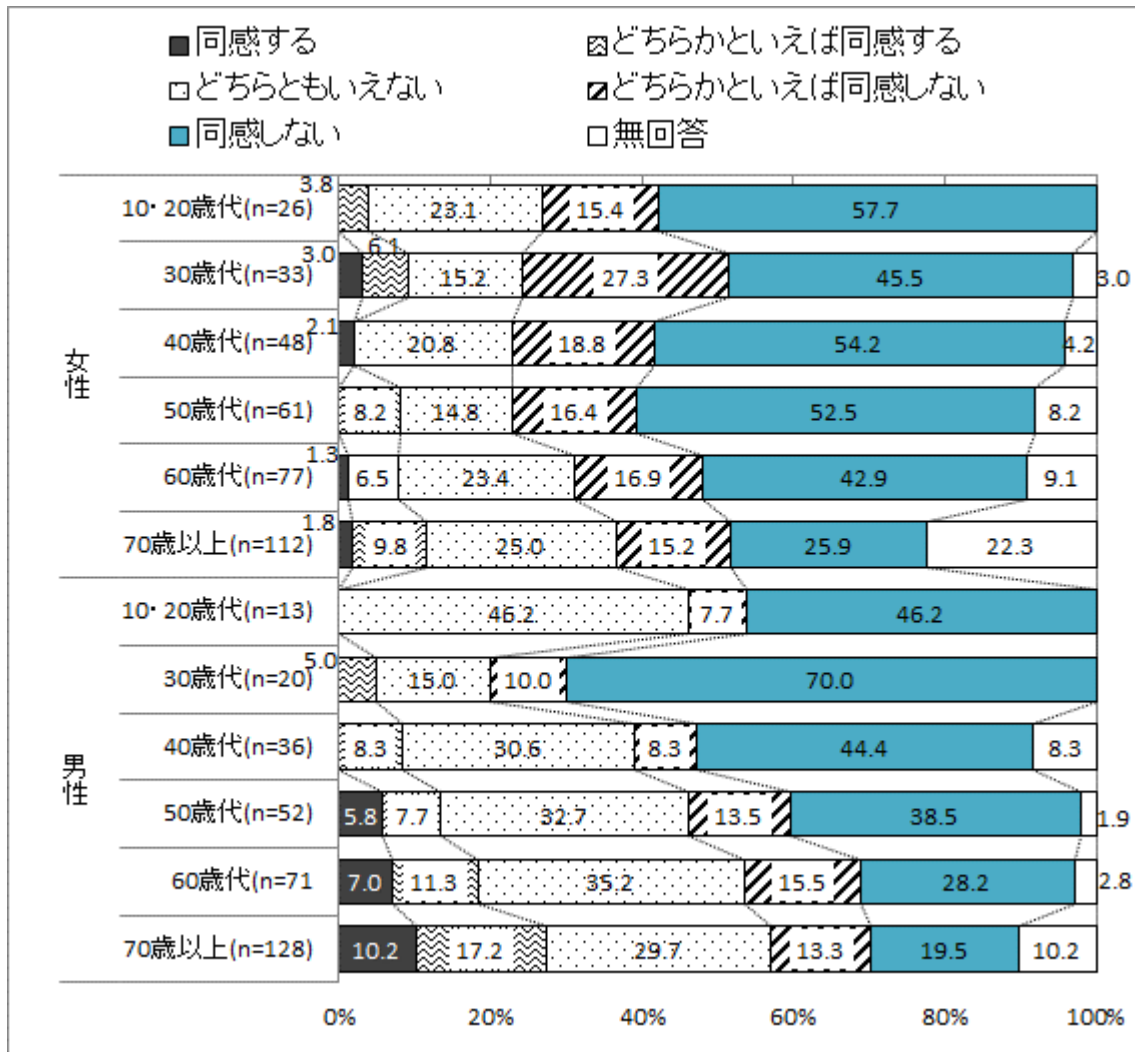
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について聞いたところ、全体では、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の割合が52.3%で、「同感する」「どちらかといえば同感する」の12.9%を上回った。また、「どちらともいえない」が26.1%となっている。

性別で見ると、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の割合は、女性が59.4%で男性より15.0ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の割合は、10・20歳代～50歳代で60%を超えている。

夫は外で働き、妻は家庭を守るべき（性×年代別）

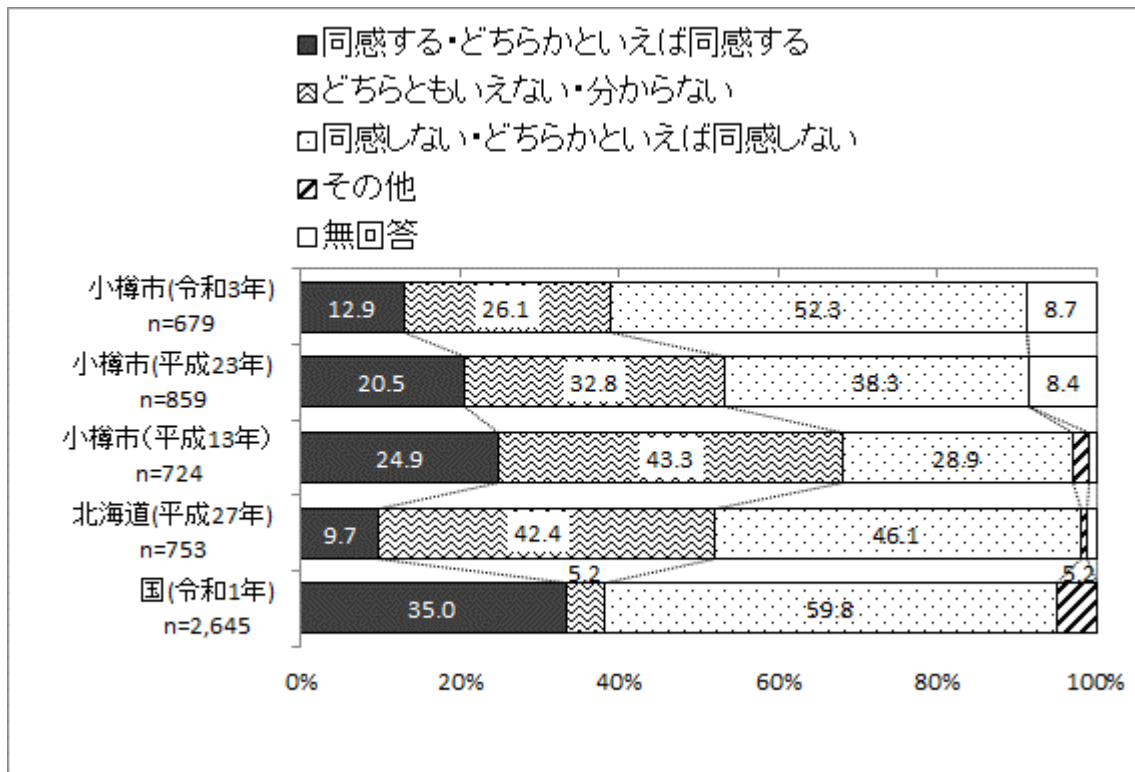
単位（％）



性×年代別で見ると、男女共に「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の割合は、年代が若いほど高い傾向となっている。

男性の30歳代で80.0%の高い割合を示したほか、女性の10・20歳代～40歳代で70%を超えるなど、全体として女性の「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の傾向が高くなっている。

夫は外で働き、妻は家庭を守るべき（過去の調査・北海道・国との比較）単位（％）



小樽市の過去の調査と比較すると、「同感する・どちらかといえば同感する」の割合が減少し、「同感しない・どちらかといえば同感しない」については増加している。

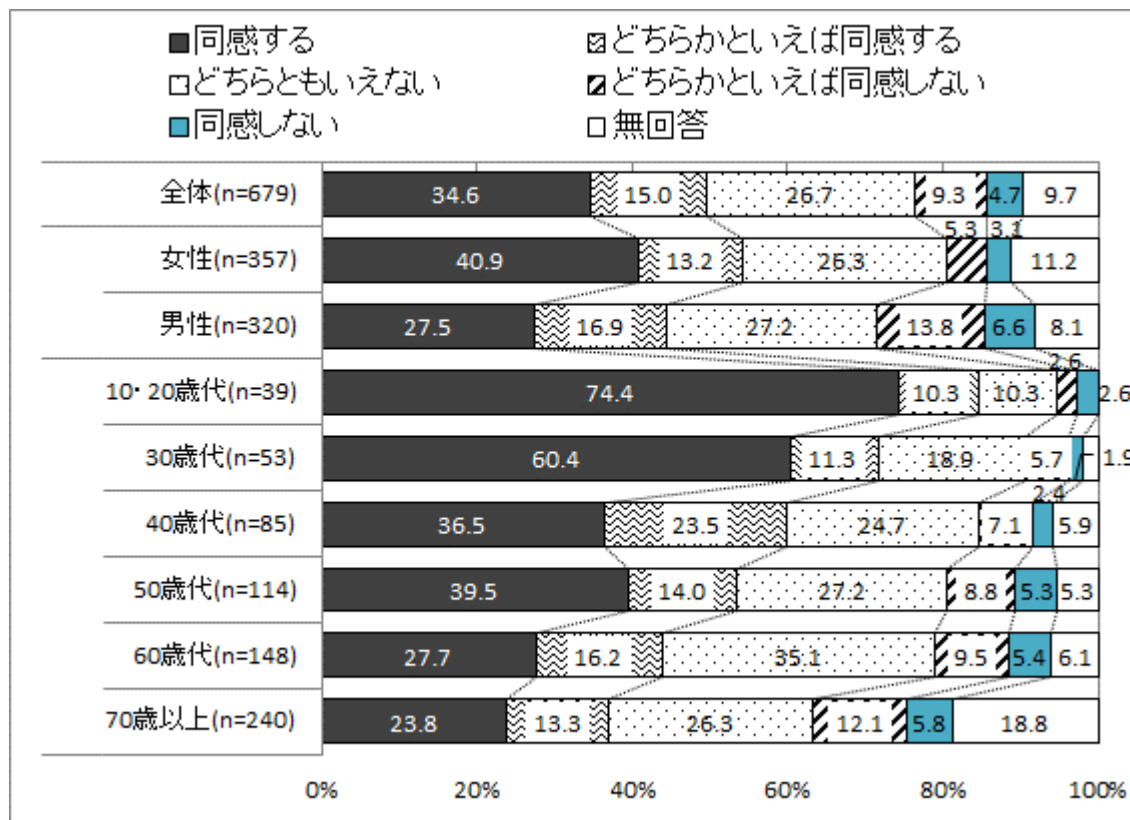
北海道の調査と比較すると、「同感する・どちらかといえば同感する」の割合は小樽市の方が低く、「同感しない・どちらかといえば同感しない」の割合は高くなっている。

国の調査と比較すると、「同感しない・どちらかといえば同感しない」の割合と「同感する・どちらかといえば同感する」の割合は、いずれも小樽市の調査と同様の傾向となっている。

③ 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない。

⇒ 「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」に同感する方は約50%

結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない（全体・性別・年代別）単位（%）



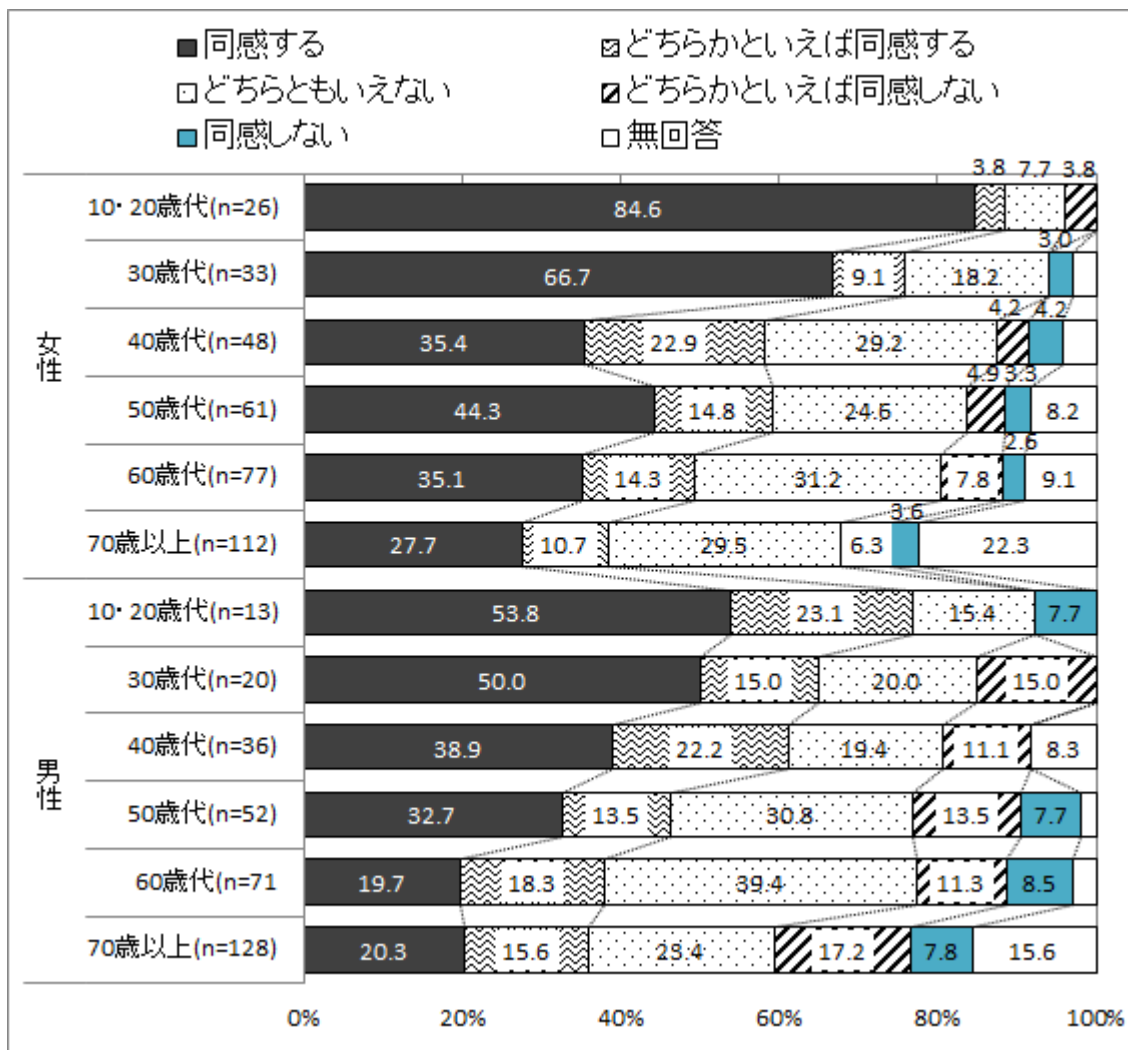
「結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方について聞いたところ、全体では、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合が49.6%で、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の14.0%を上回っている。また、「どちらともいえない」が26.7%となっている。

性別で見ると、女性で「同感する」「どちらかといえば同感する」が54.1%で、男性よりも9.7ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合は、年代が若いほど高くなっており、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の割合は、全ての年代で20%を下回っている。

結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない（性×年代別）

単位（％）



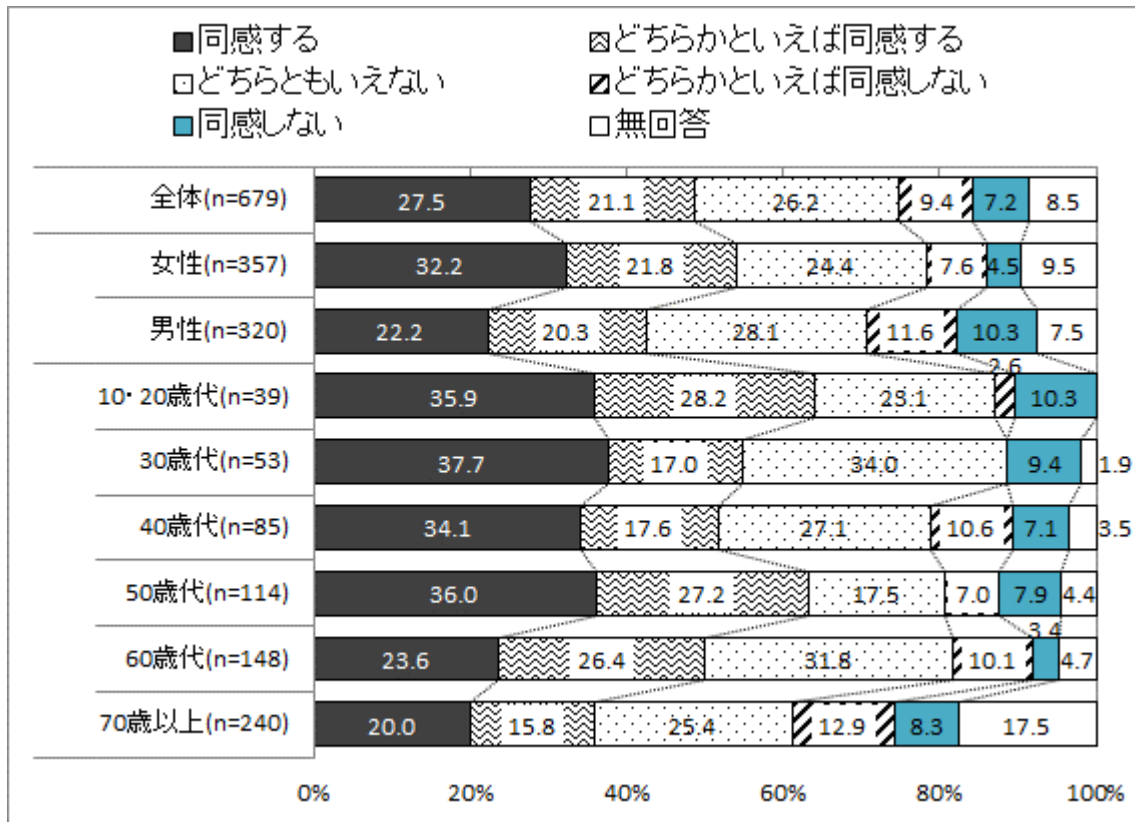
性×年代別で見ると、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合は、男女共に年代が若いほど高い傾向となっており、女性の10・20歳代～50歳代、男性の10・20歳代～40歳代で50%を超えている。

④ 結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい。

⇒ 「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」に同感する方が約49%

結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい（全体・性別・年代別）

単位（%）



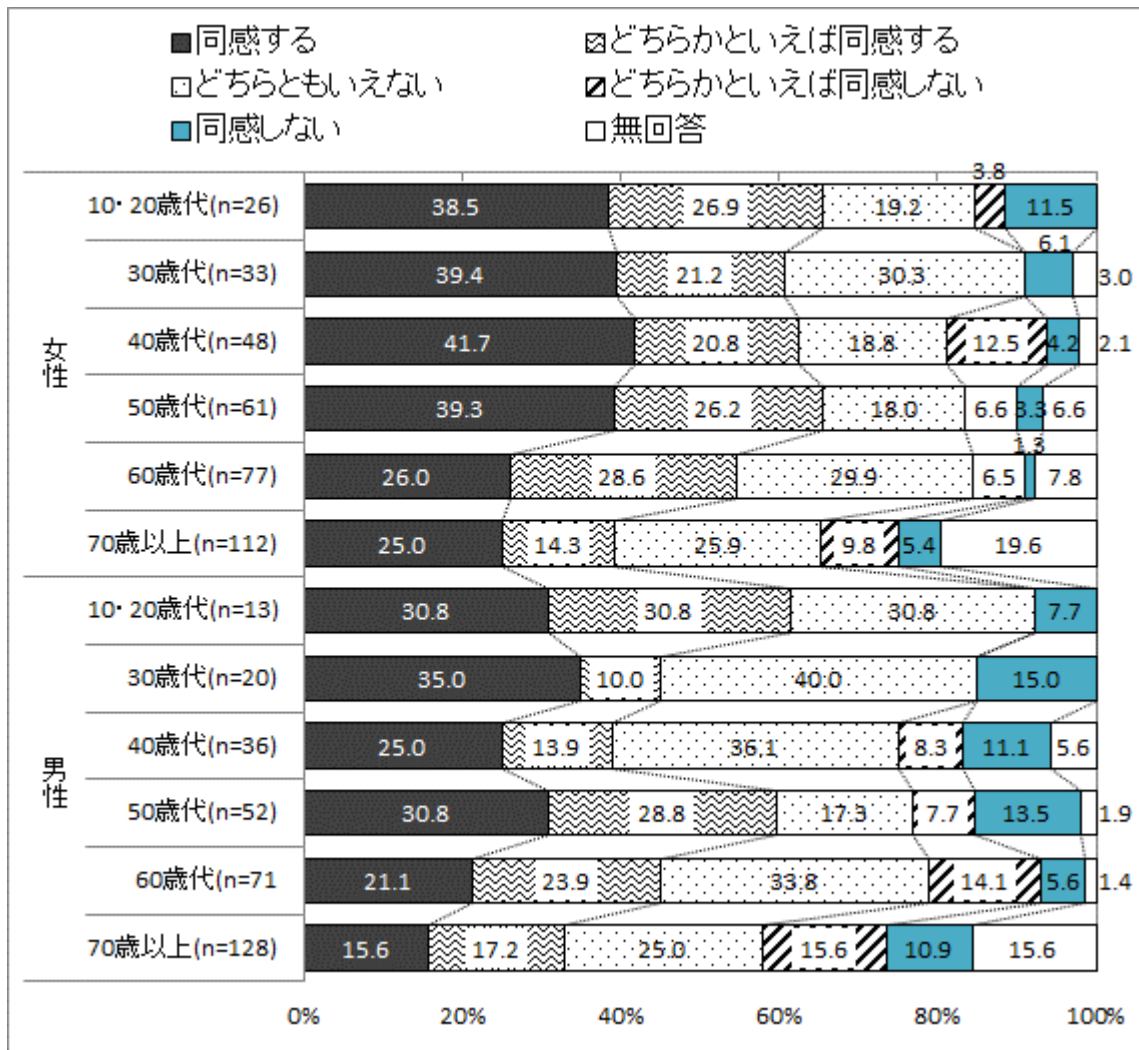
「結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい」という考え方について聞いたところ、全体では、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合が48.6%で、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の16.6%を上回っている。

性別で見ると、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合は、女性が54.0%で男性より11.5ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合は、10・20歳代～60歳代で50%を超えており、全ての年代で「同感しない」「どちらかといえば同感しない」を上回っている。



結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい（性×年代別）単位（％）



性×年代別で見ると、男女共に「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合が、「同意しない」「どちらかといえば同意しない」を上回っており、特に、女性の10・20歳代～60歳代、男性の10・20歳代と50歳代で高い傾向となっている。

問8 家庭内での家事分担について

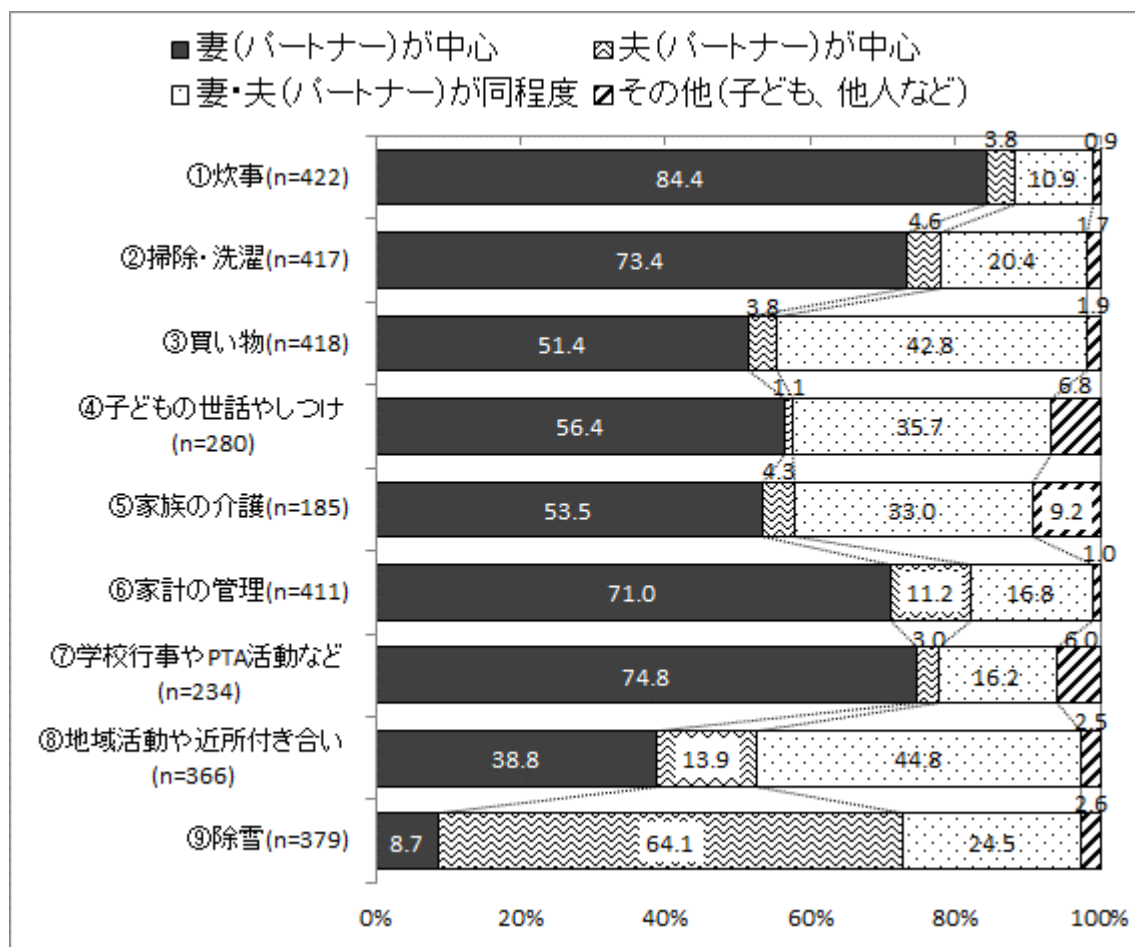
問5の結婚で、「①、②」に○をつけた方に伺います。あなたの家庭では日常の家事をどのように行っていますか。次の項目について、それぞれ下の選択肢から1つを選んで番号を記入してください。

※ 問8のグラフは、「この家事自体がない」「無回答」を除いて作成しています。

⇒ 9項目中、7項目(①～⑦)の家事は妻が中心、夫が中心なのは除雪のみ。

家庭内での家事分担について (全体)

単位 (%)



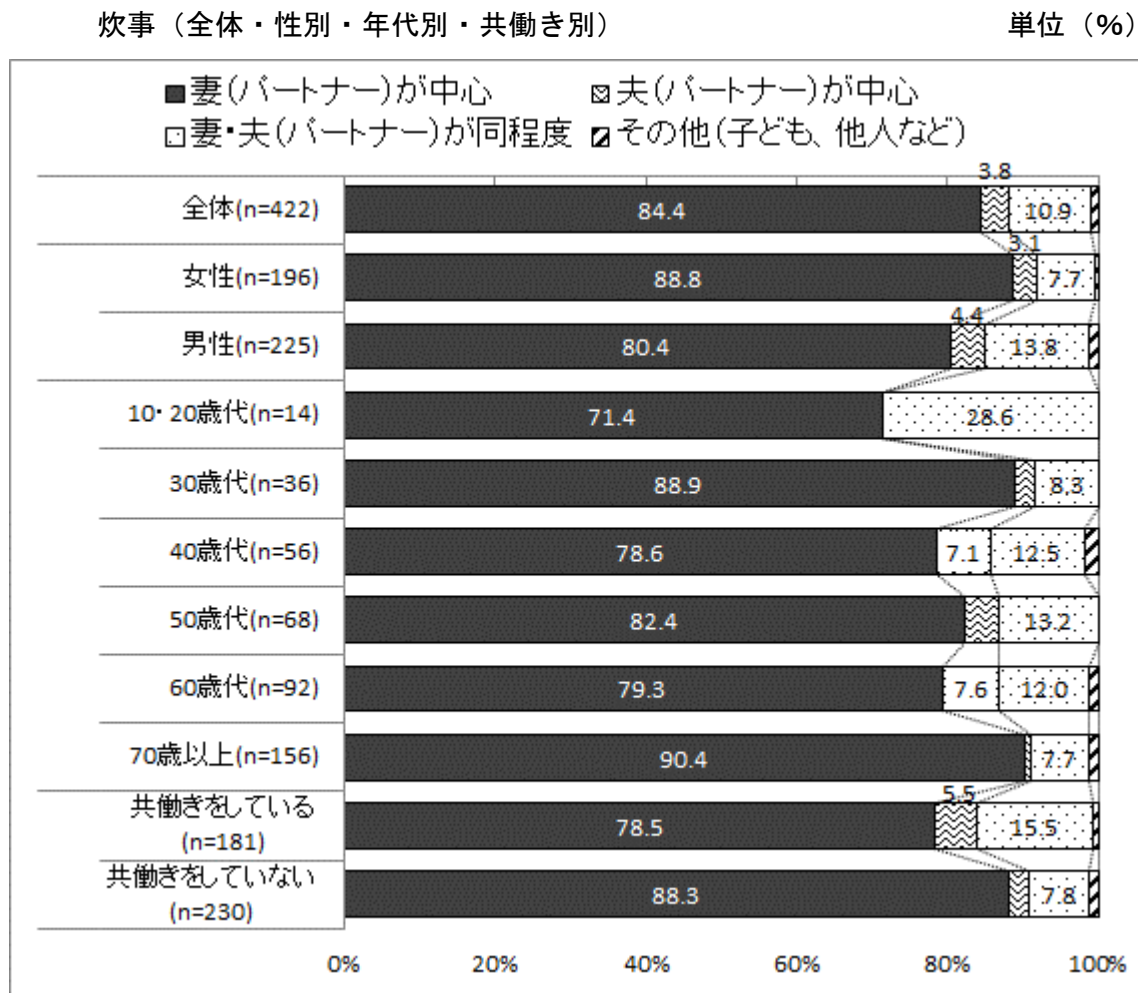
上記9項目の家庭内の家事分担について聞いたところ、①～⑦の7項目は「妻(パートナー)が中心」に行われており、特に「炊事」「掃除・洗濯」「家計の管理」「学校行事やPTA活動など」については、「妻(パートナー)が中心」の割合が70%を超えている。

⑧の「地域活動や近所付き合い」については、「妻(パートナー)が中心」の割合が38.8%、「妻・夫(パートナー)が同程度」が44.8%となっている。

また、夫が中心に行っているのは「除雪」のみで、その割合は64.1%となっている。

① 炊事

⇒ 「妻が中心」の割合が高い7項目中第1位、その割合は約84%



炊事については、全体では、「妻（パートナー）が中心」の割合が高い家事7項目中の第1位で、その割合は84.4%となっている。「夫（パートナー）が中心」は3.8%、「妻・夫（パートナー）が同程度」は10.9%となっている。

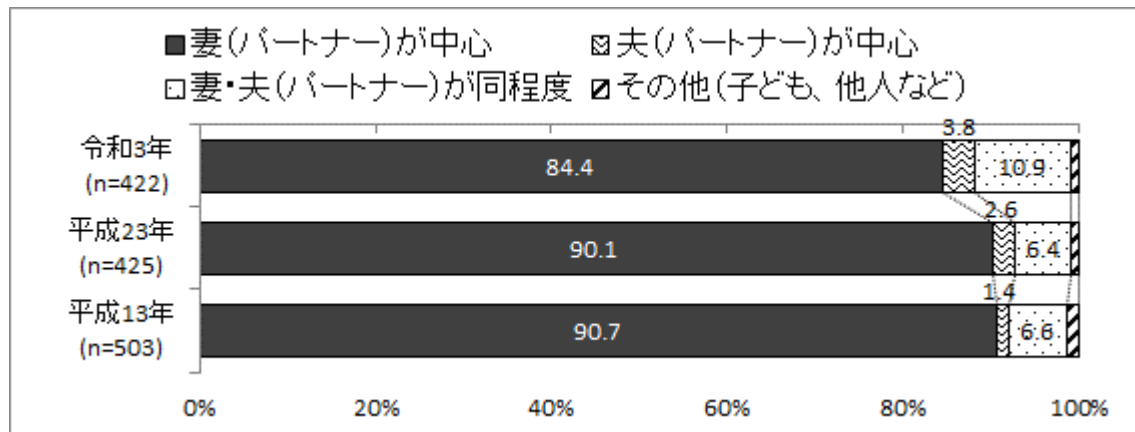
性別で見ると、「妻（パートナー）が中心」の割合は、女性が88.8%、男性が80.4%となっている。

年代別で見ると、「妻（パートナー）が中心」の割合は全ての年代で70%を超え、最も高くなっている。

共働き別で見ると、「妻（パートナー）が中心」の割合は、共働きをしていない人の方が88.3%で共働きをしていない人より10ポイント近く高くなっている。

炊事（過去の調査との比較）

単位（％）



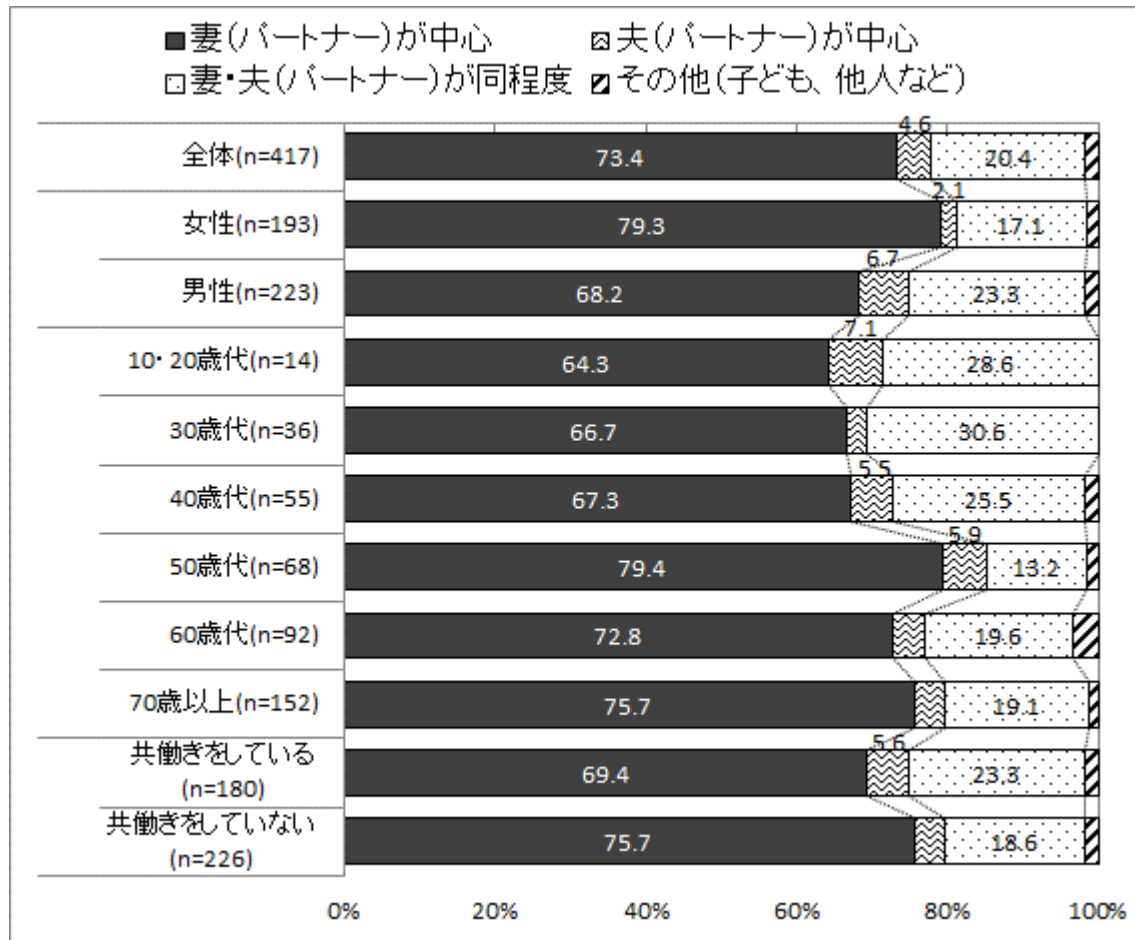
過去の調査と比較すると、「妻（パートナー）が中心」の割合が減少し、「妻・夫（パートナー）が同程度」「夫（パートナー）が中心」の割合が増加傾向となっている。

## ② 掃除・洗濯

⇒ 「妻が中心」の割合が高い7項目中第3位、その割合は約73%

掃除・洗濯（全体・性別・年代別・共働き別）

単位（%）



掃除・洗濯については、全体では、「妻（パートナー）が中心」の割合が73.4%、「夫（パートナー）が中心」が4.6%、「妻・夫（パートナー）が同程度」が20.4%となっている。

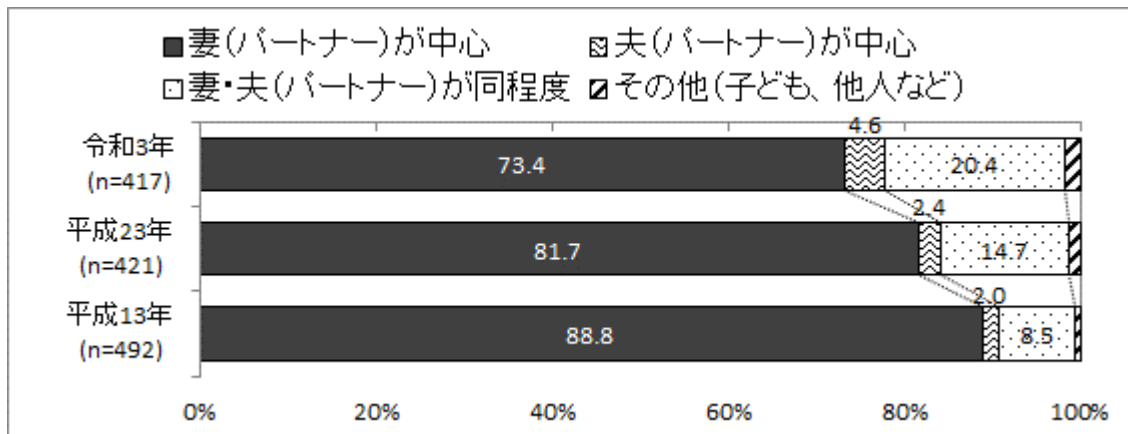
性別で見ると、「妻（パートナー）が中心」の割合は、女性で79.3%、男性で68.2%となっている。

年代別で見ると、「妻（パートナー）が中心」の割合は全ての年代で最も高くなっている。

共働き別で見ると、「妻（パートナー）が中心」の割合は、共働きをしていない人が75.7%で、共働きをしている人より高くなっている。

掃除・洗濯（過去の調査との比較）

単位（％）



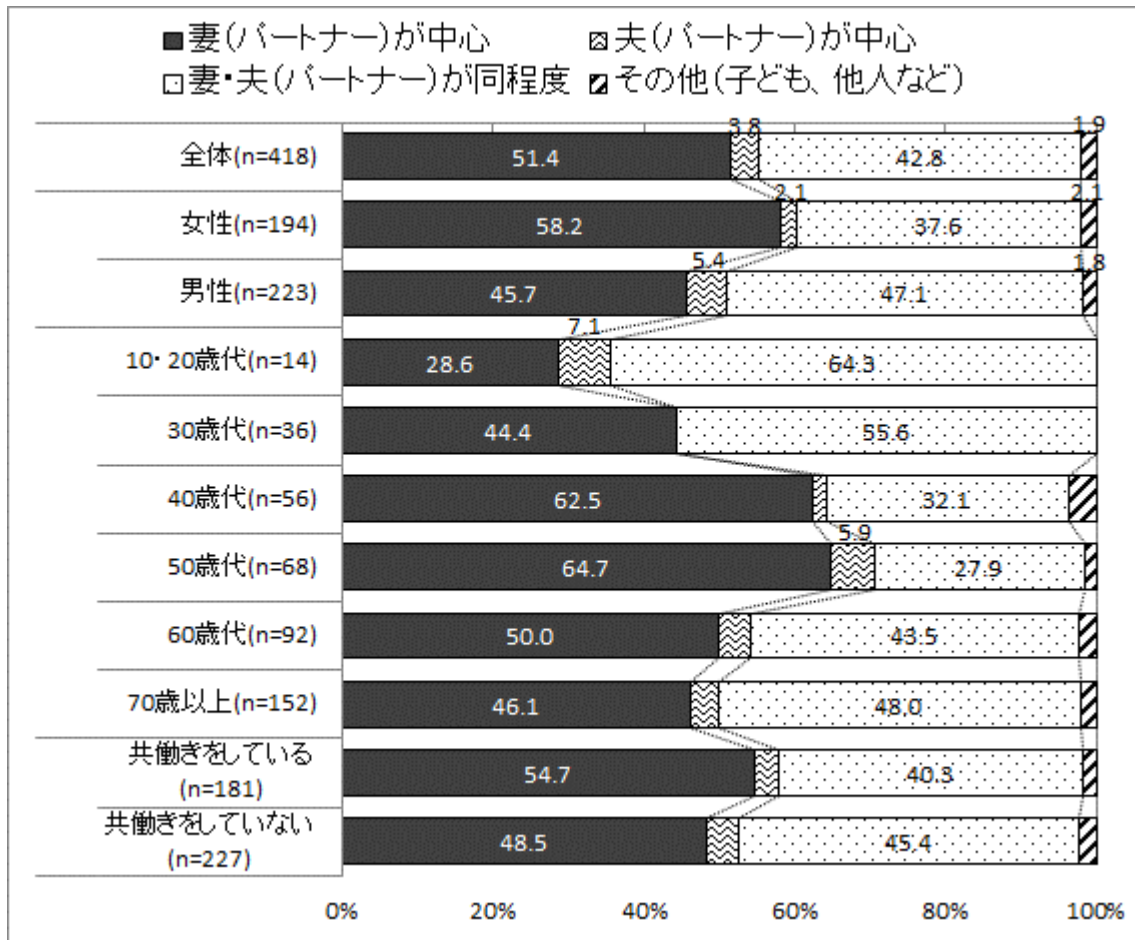
過去の調査と比較すると、令和3年の「妻（パートナー）が中心」の割合は、平成13年調査より15.4ポイント減少し、「妻・夫（パートナー）が同程度」の割合は、11.9ポイント増加している。

### ③ 買い物

⇒ 「妻が中心」の割合が高い7項目中第7位、その割合は約51%

買い物（全体・性別・年代別・共働き別）

単位（%）



買い物については、全体では、「妻（パートナー）が中心」の割合は51.4%、「夫（パートナー）が中心」が3.8%、「妻・夫（パートナー）が同程度」が42.8%となっている。

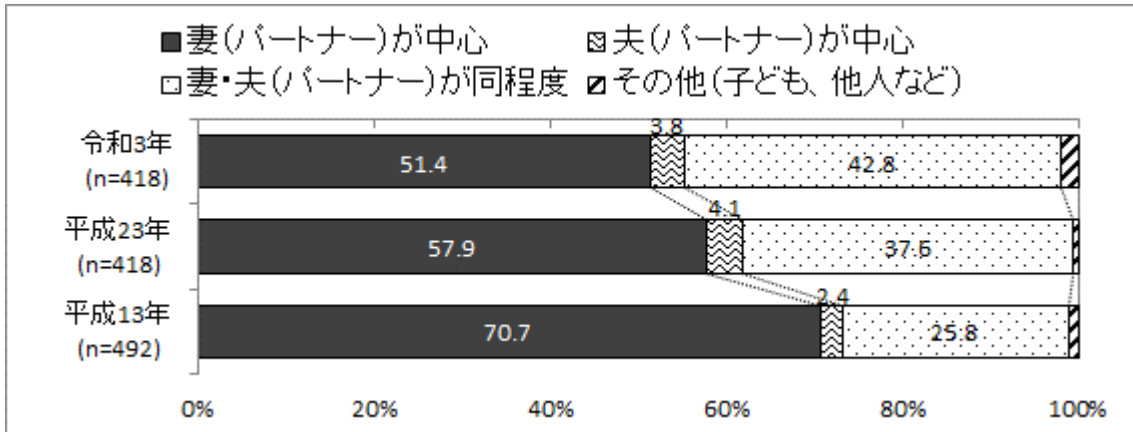
性別で見ると、「妻（パートナー）が中心」の割合は、女性で58.2%となり、男性より12.5ポイント高くなっている。

年代別で見ると、40歳代と50歳代では「妻（パートナー）が中心」の割合が60%を超えているが、10・20歳代や30歳代、70歳以上では「妻・夫（パートナー）が同程度」の割合が最も高くなっている。

共働き別で見ると、共働きをしている人で「妻（パートナー）が中心」の割合が高くなっている。

買い物（過去の調査との比較）

単位（％）



過去の調査と比較すると、令和3年では「妻（パートナー）が中心」の割合が平成13年より19.3ポイント減少し、「妻・夫（パートナー）が同程度」が17.0ポイント増加している。

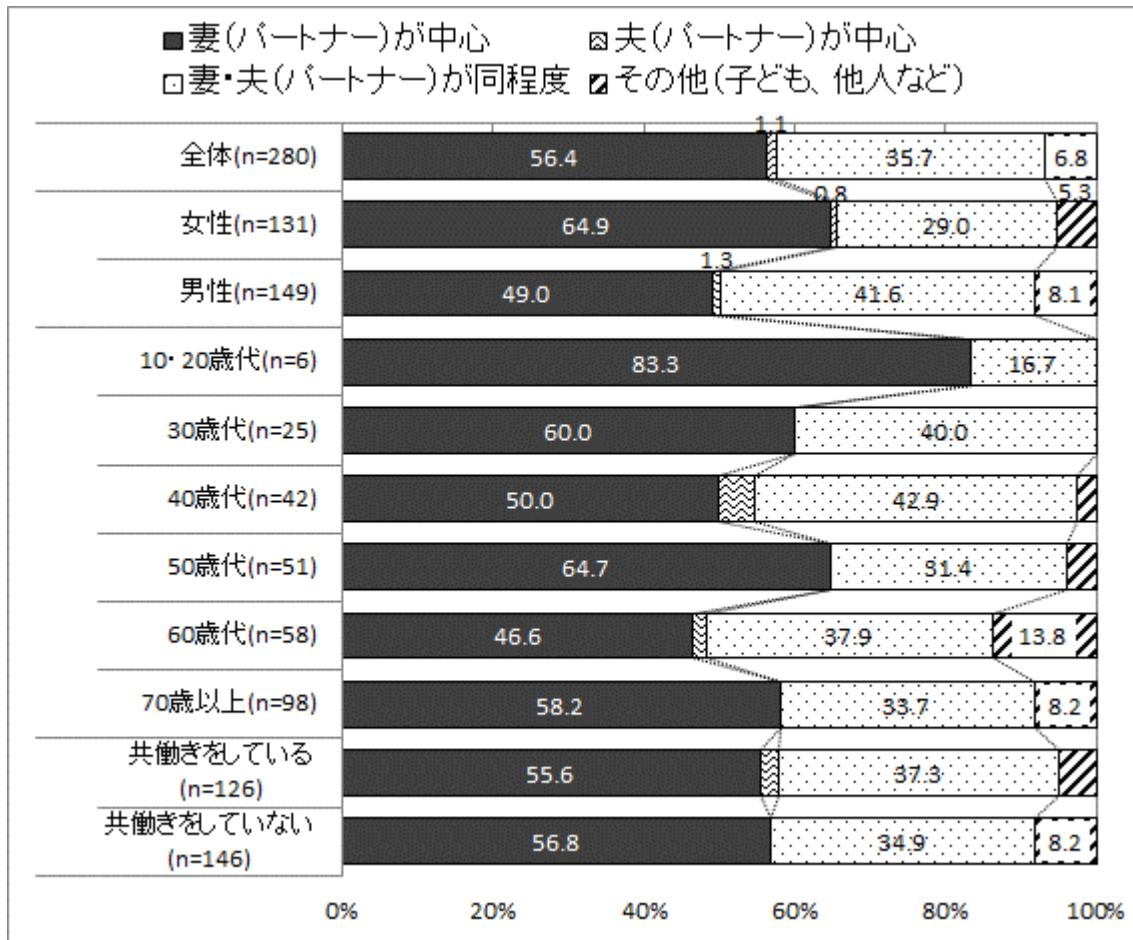


#### ④ 子どもの世話やしつけ

⇒ 「妻が中心」の割合が高い7項目中第5位で、その割合は約56%

子どもの世話やしつけ（全体・性別・年代別・共働き別）

単位（%）



子どもの世話やしつけについては、全体では、「妻（パートナー）が中心」の割合が56.4%、「夫（パートナー）が中心」が1.1%、「妻・夫（パートナー）が同程度」も35.7%となっている。

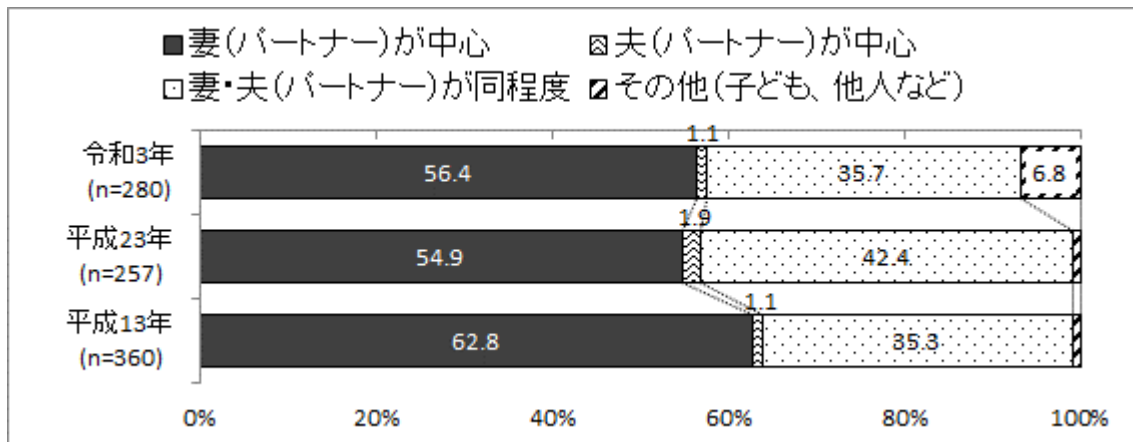
性別で見ると、女性では「妻（パートナー）が中心」の割合が64.9%で男性より15.9ポイント高く、男性では「妻・夫（パートナー）が同程度」の割合が41.6%で最も高くなっている。

年代別で見ると、「妻（パートナー）が中心」の割合は、各年代で最も高く、10・20歳代では80%を超えている。

共働き別で見ると、「妻（パートナー）が中心」の割合が最も高くなっているが、その割合は同程度となっている。

子どもの世話やしつけ（過去の調査との比較）

単位（％）



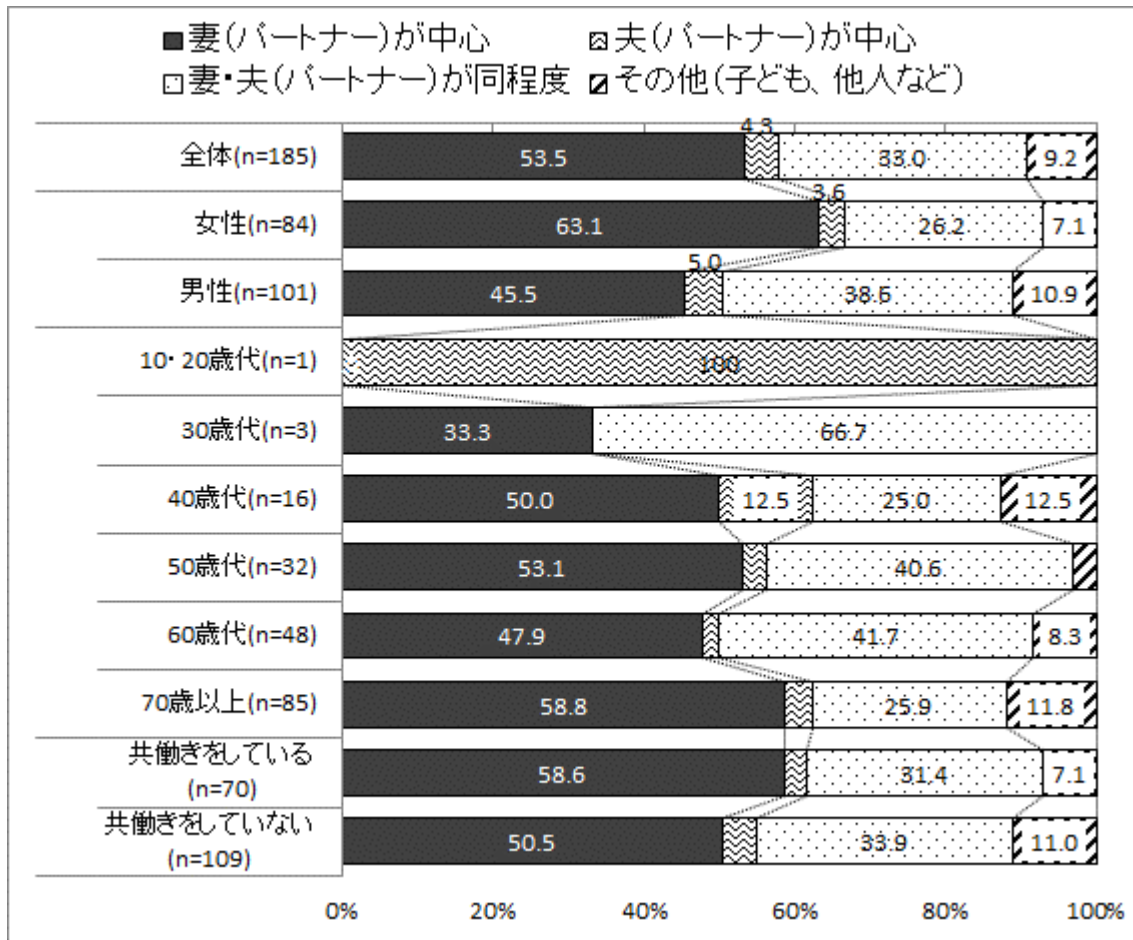
過去の調査と比較すると、令和3年の「妻（パートナー）が中心」の割合は平成13年調査より減少となっているものの、大きな変化は見られない。

## ⑤ 家族の介護

⇒ 「妻が中心」の割合が高い7項目中第6位で、その割合は約54%

家族の介護（全体・性別・年代別・共働き別）

単位（%）



家族の介護については、全体では、「妻（パートナー）が中心」の割合が53.5%、「夫（パートナー）が中心」が4.3%、「妻・夫（パートナー）が同程度」が33.0%となっている。

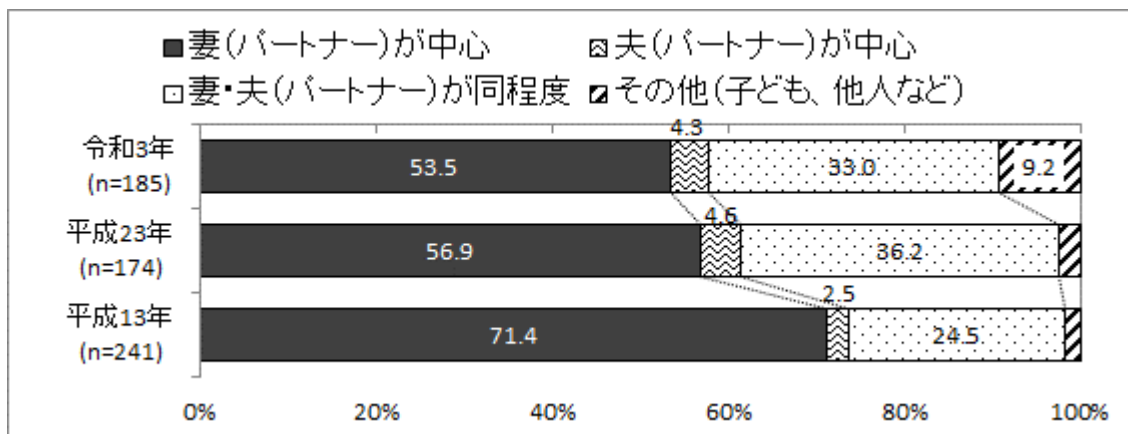
性別で見ると、「妻（パートナー）が中心」の割合は、女性が63.1%で男性よりも17.6ポイント高くなっている。

年代別で見ると、40歳以上では「妻（パートナー）が中心」の割合が最も高くなっているが、50歳代・60歳代では「妻・夫（パートナー）が同程度」の割合も40%を超えている。

共働き別で見ると、共働きをしている人の方が「妻（パートナー）が中心」の割合が高くなっている。

家族の介護（過去の調査との比較）

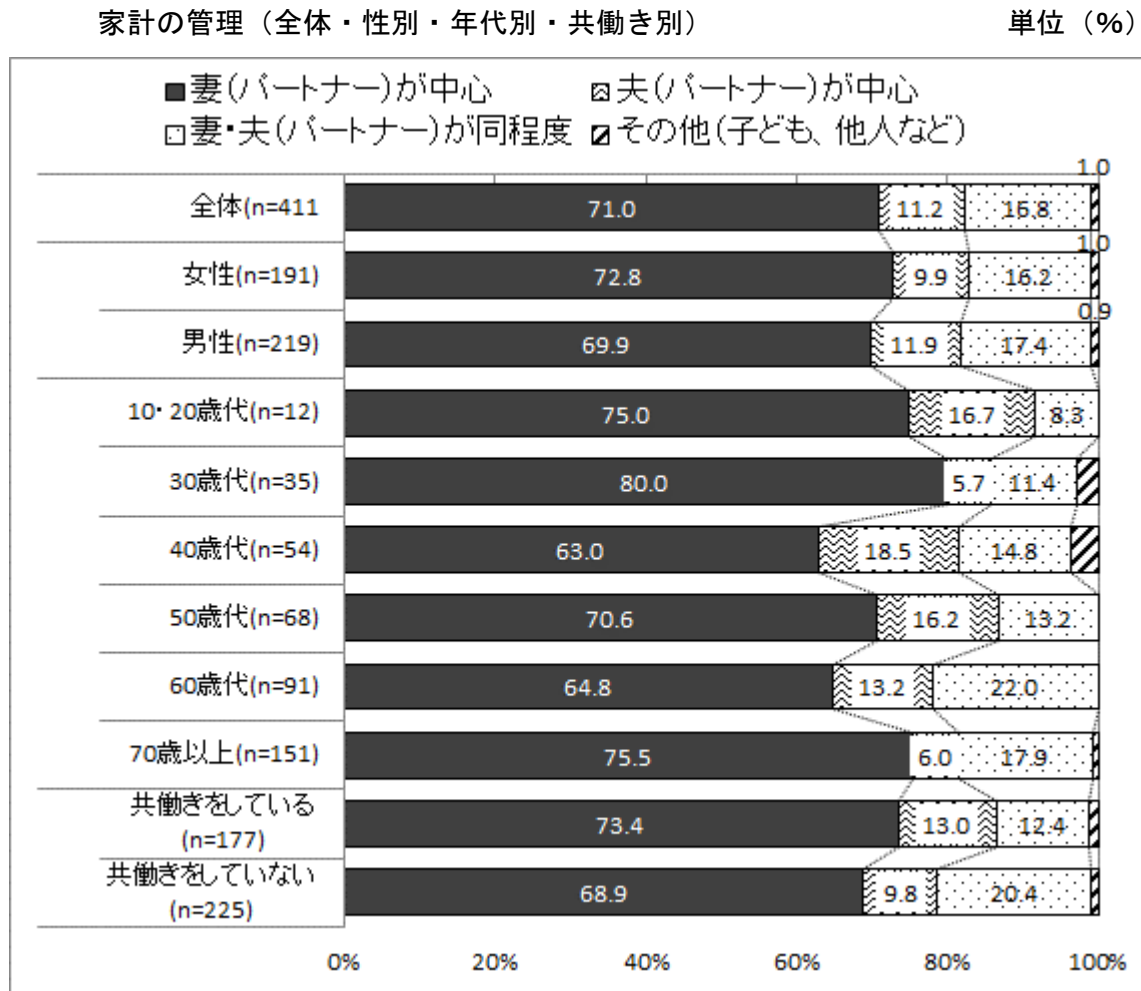
単位（％）



過去の調査と比較すると、令和3年では「妻（パートナー）が中心」の割合が平成13年よりも17.9ポイント減少し、「妻・夫（パートナー）が同程度」が8.5ポイント、「その他（子ども、他人など）」が7.6ポイント、それぞれ増加している。

## ⑥ 家計の管理

⇒ 「妻が中心」の割合が高い7項目中第4位、その割合は71.0%



家計の管理については、全体では、「妻（パートナー）が中心」の割合が71.0%、「夫（パートナー）が中心」が11.2%、「妻・夫（パートナー）が同程度」が15.8%となっている。

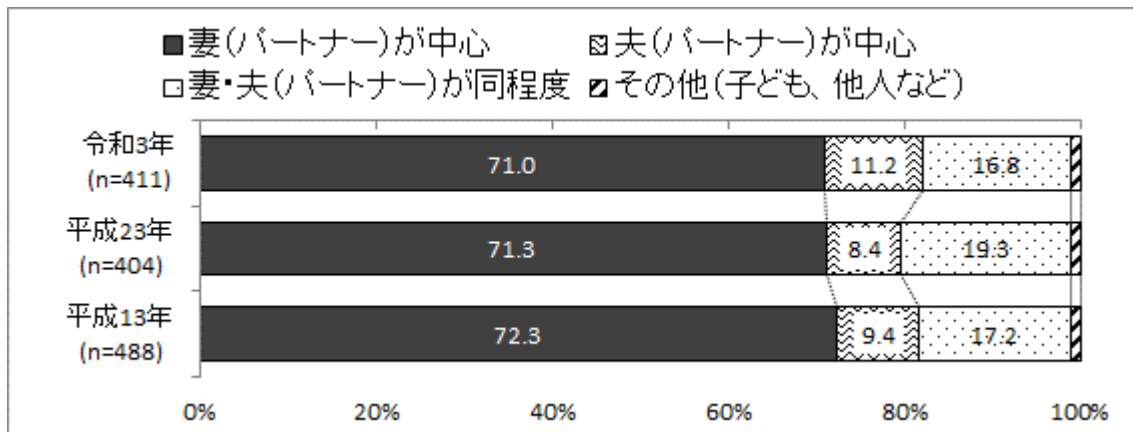
性別で見ると、女性・男性共に「妻（パートナー）が中心」の割合が70%程度と高くなっている。

年代別で見ると、「妻（パートナー）が中心」の割合は、30歳代で80.0%になるなど各年代で最も高くなっている。

共働き別で見ると、共働きをしている人の方で「妻（パートナー）が中心」の割合が高くなっている。

家計の管理（過去の調査との比較）

単位（％）

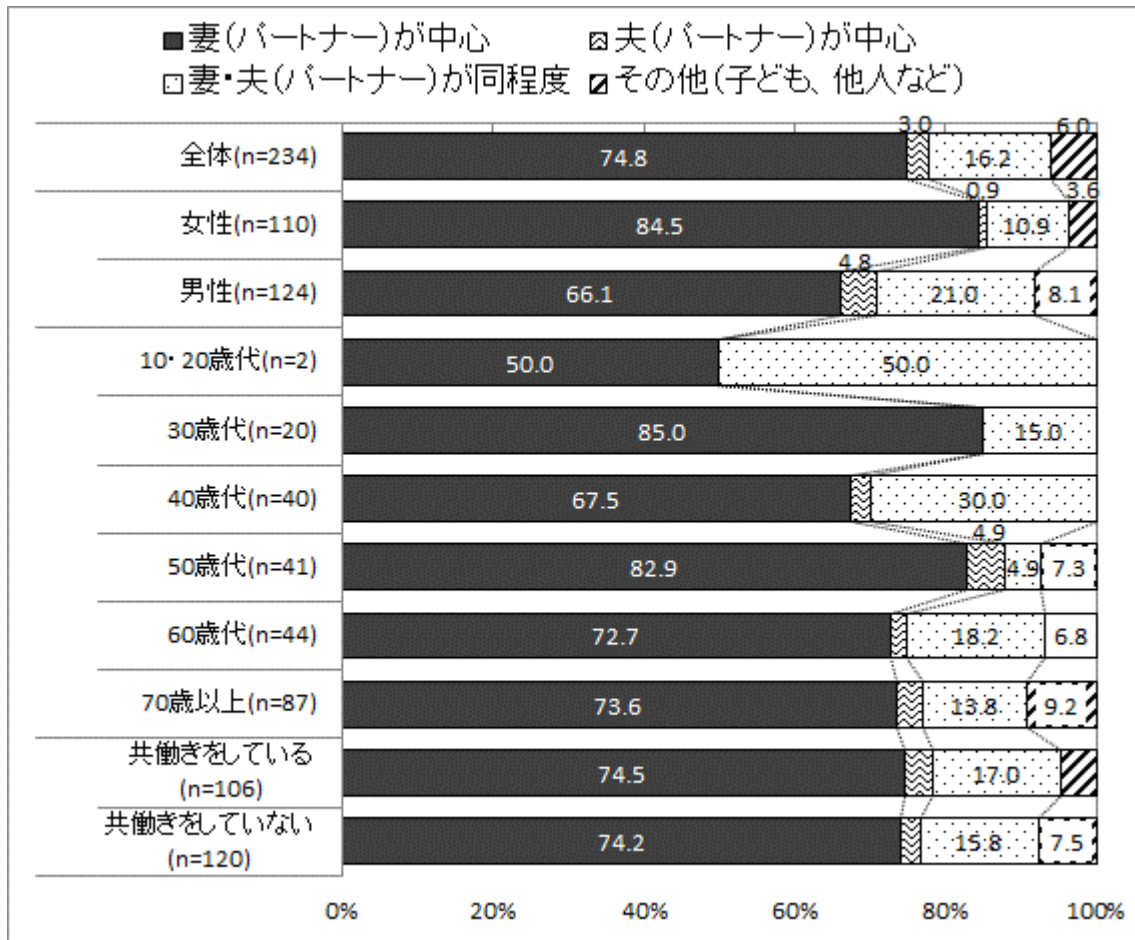


過去の調査と比較すると、「妻（パートナー）が中心」の割合に大きな変化は見られない。

⑦ 学校行事やPTA活動など

⇒ 「妻が中心」の割合が高い7項目中第2位、その割合は約75%

学校行事やPTA活動など（全体・性別・年代別・共働き別） 単位（%）



学校行事やPTA活動などについては、全体では、「妻(パートナー)が中心」の割合が74.8%、「夫(パートナー)が中心」が3.0%、「妻・夫(パートナー)が同程度」が16.2%となっている。

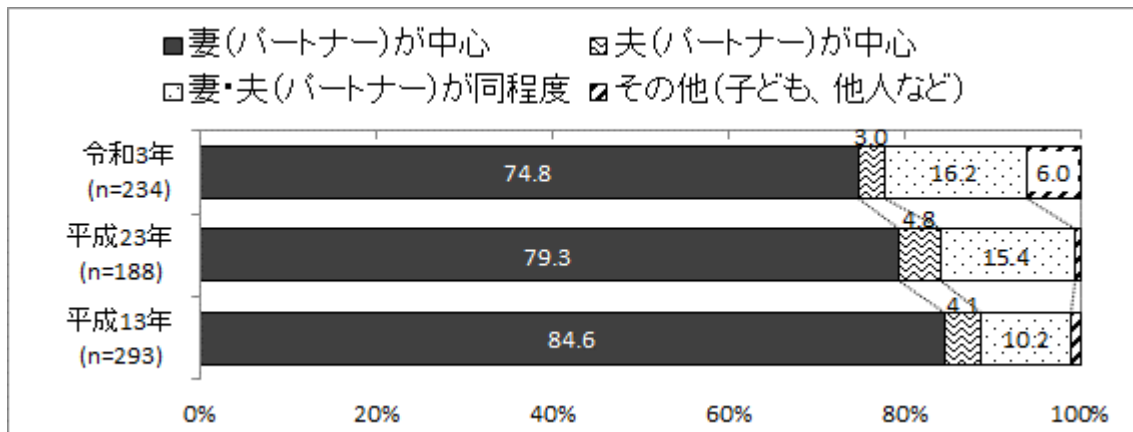
性別で見ると、「妻(パートナー)が中心」の割合は、女性が84.5%で男性より18.4ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「妻(パートナー)が中心」の割合は、30歳代と50歳代で80%を超えるなど各年代で最も高くなっている。

共働き別で見ると、「妻(パートナー)が中心」の割合は同程度となっている。

学校行事やPTA活動など（過去の調査との比較）

単位（％）



過去の調査と比較すると、「妻（パートナー）が中心」の割合が減少し、「妻・夫（パートナー）が同程度」が増加する傾向となっている。

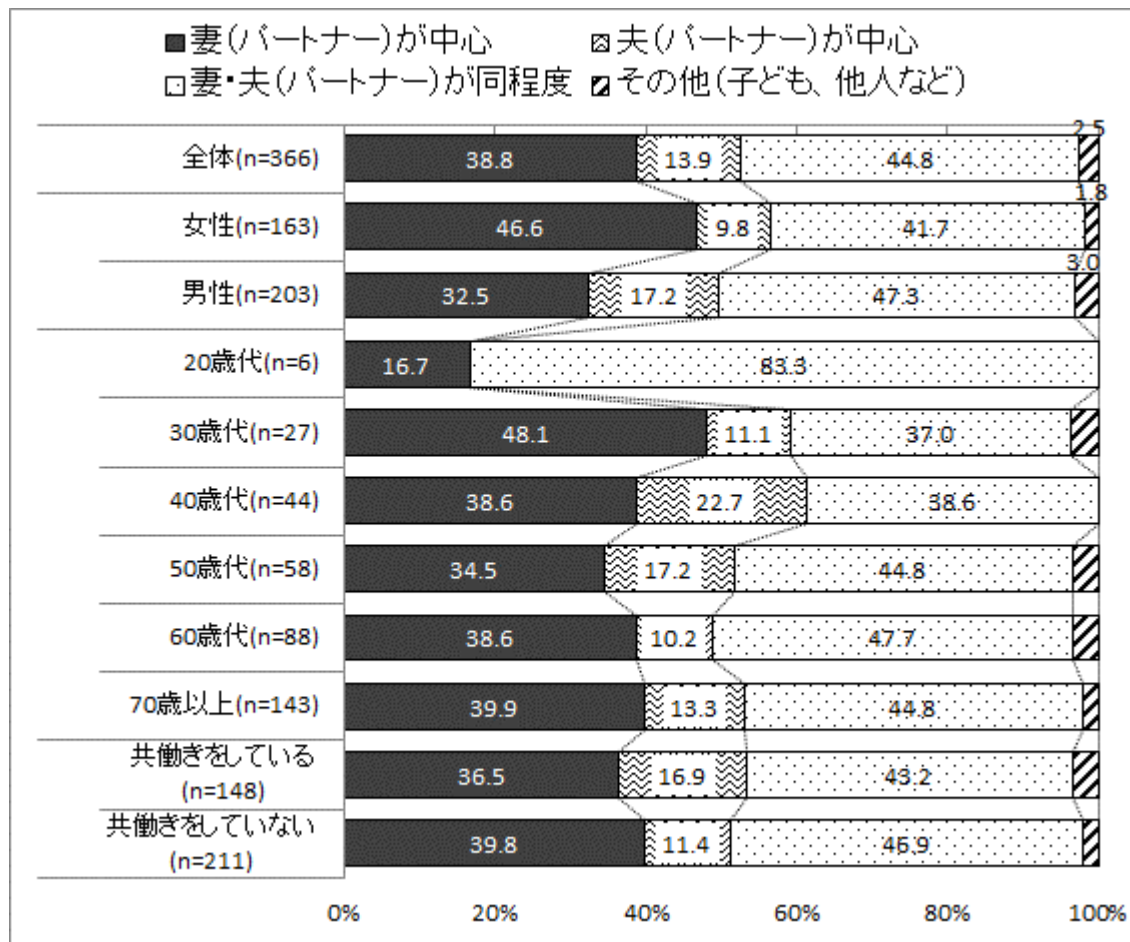


⑧ 地域活動や近所付き合い

⇒ 「妻・夫が同程度」が約45%、「妻が中心」が約39%

地域活動や近所付き合い（全体・性別・年代別・共働き別）

単位（%）



地域活動や近所付き合いについては、全体では、「妻・夫（パートナー）が同程度」の割合が44.8%、「妻（パートナー）が中心」が38.8%、「夫（パートナー）が中心」が13.9%となっている。

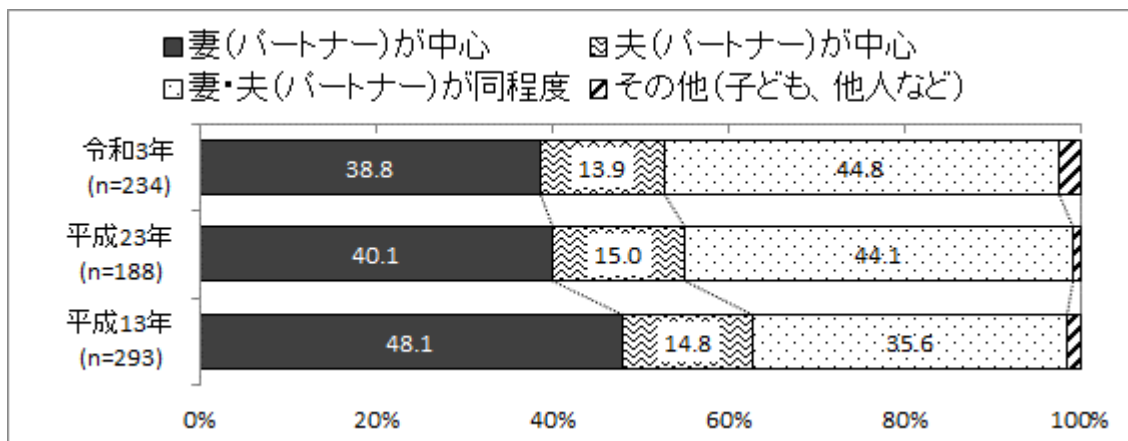
性別で見ると、女性では「妻（パートナー）が中心」の割合が46.6%、男性では「妻・夫（パートナー）が同程度」が47.3%で、それぞれ最も高くなっている。

年代別で見ると、30歳代で「妻（パートナー）が中心」の割合が48.1%で最も高くなっているが、その他の年代では「妻・夫（パートナー）が同程度」の割合が最も高くなっている。

共働き別で見ると、いずれも「妻・夫（パートナー）が同程度」の割合が最も高くなっている。

地域活動や近所付き合い（過去の調査との比較）

単位（％）



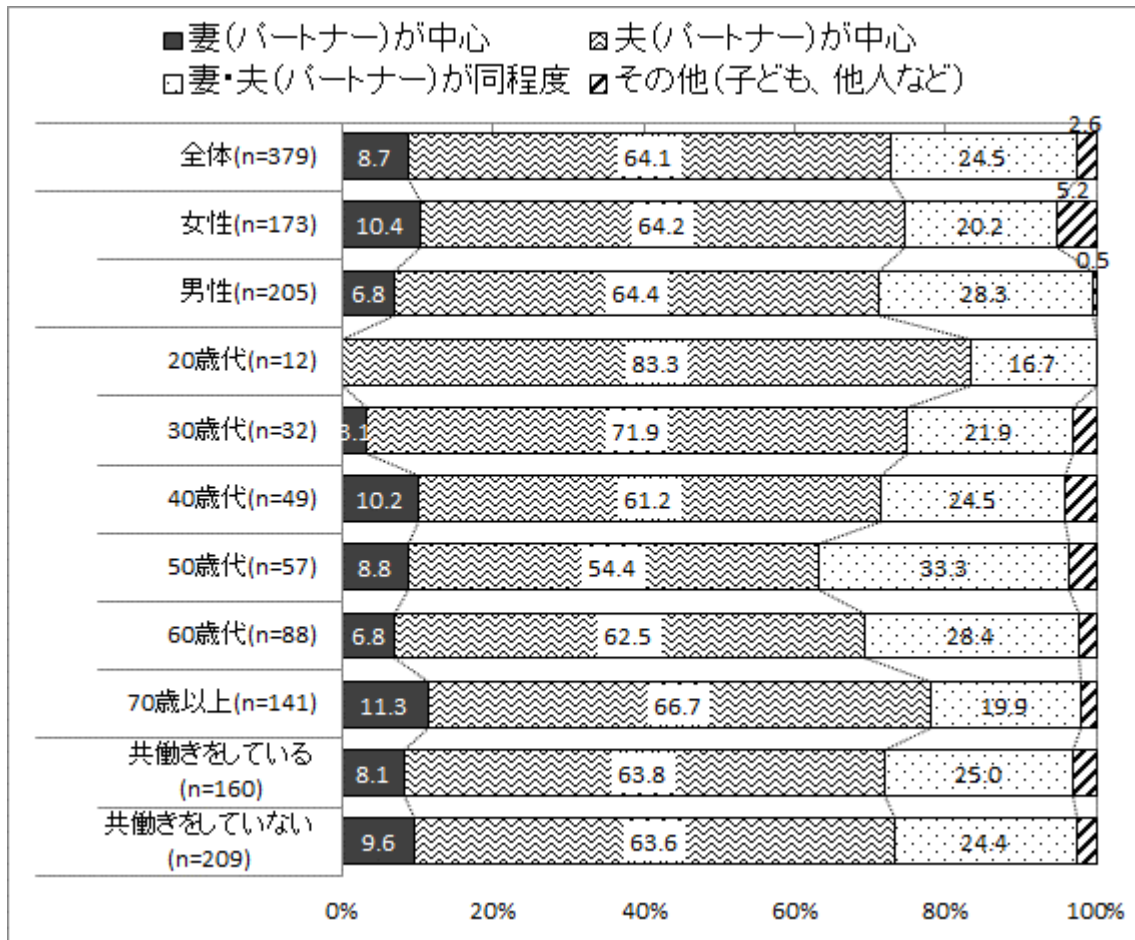
過去の調査と比較すると、令和3年は「妻（パートナー）が中心」の割合が平成13年より9.3ポイント減少し、「妻・夫（パートナー）が同程度」が9.2ポイント増加している。

⑨ 除雪

⇒ 家事の内、「夫が中心」は除雪のみ、約64%

除雪（全体・性別・年代別・共働き別）

単位（%）



除雪については、全体では、「夫（パートナー）が中心」の割合が64.1%で、「妻・夫（パートナー）が同程度」が24.5%、「妻（パートナー）が中心」が8.7%となっている。

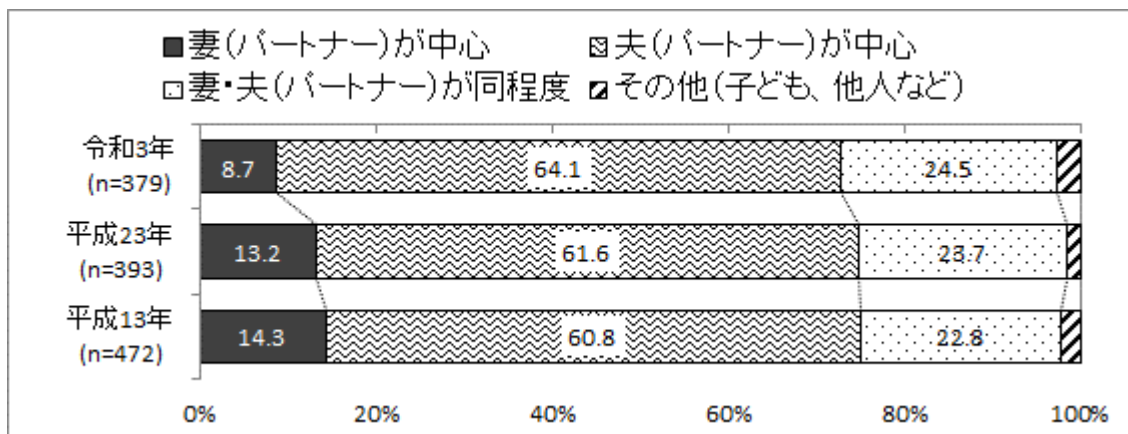
性別で見ると、「夫（パートナー）が中心」の割合は、女性・男性ともに同程度となっている。

年代別で見ると、「夫（パートナー）が中心」の割合は、各年代で高くなっている。

共働き別で見ると、違いは見られない。

除雪（過去の調査との比較）

単位（％）



過去の調査と比較すると、令和3年は「夫（パートナー）が中心」の割合が若干増加し、「妻（パートナー）が中心」が減少している。

問9 子育ての考え方について

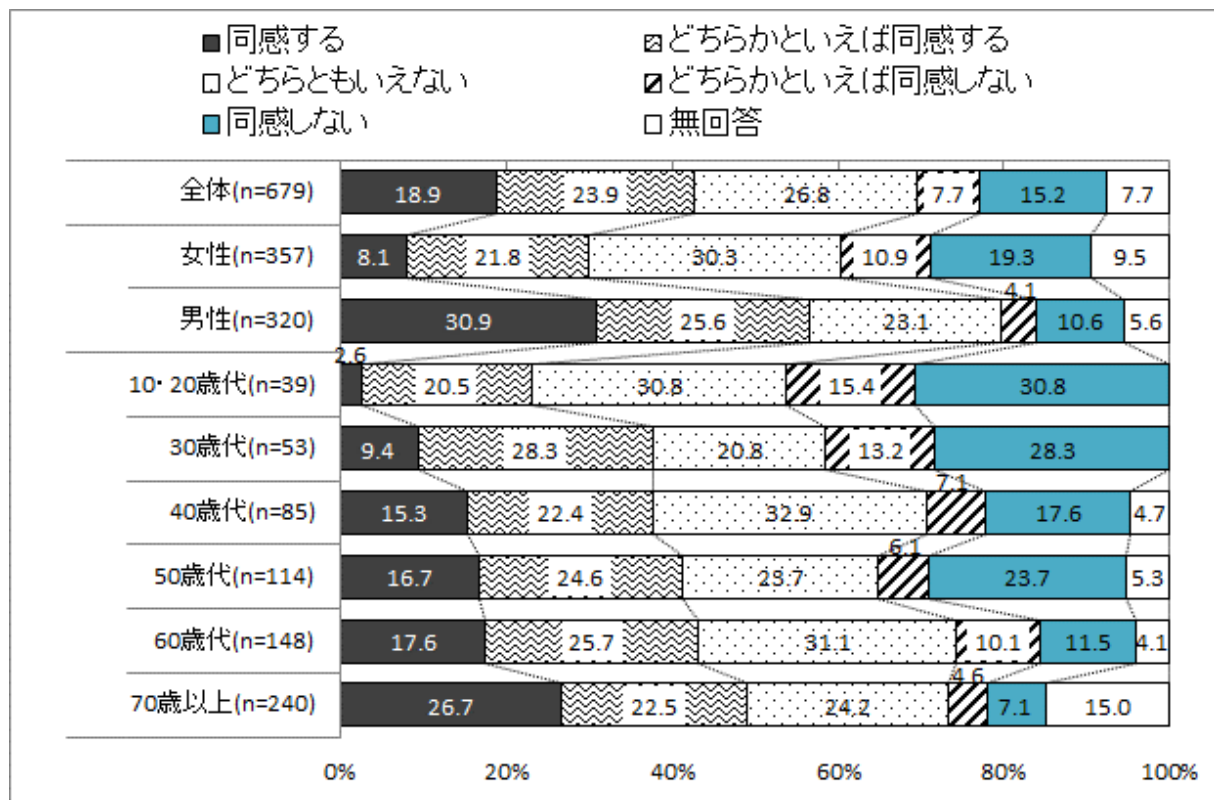
子育てについて様々な考え方があります。あなたはどのように考えますか。次の項目について、下の選択肢から1つを選んで番号を記入してください。

① 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい。

⇒ 子どもに「女(男)らしさ」を望んでいる方は約43%

女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい

(全体・性別・年代別) 単位 (%)



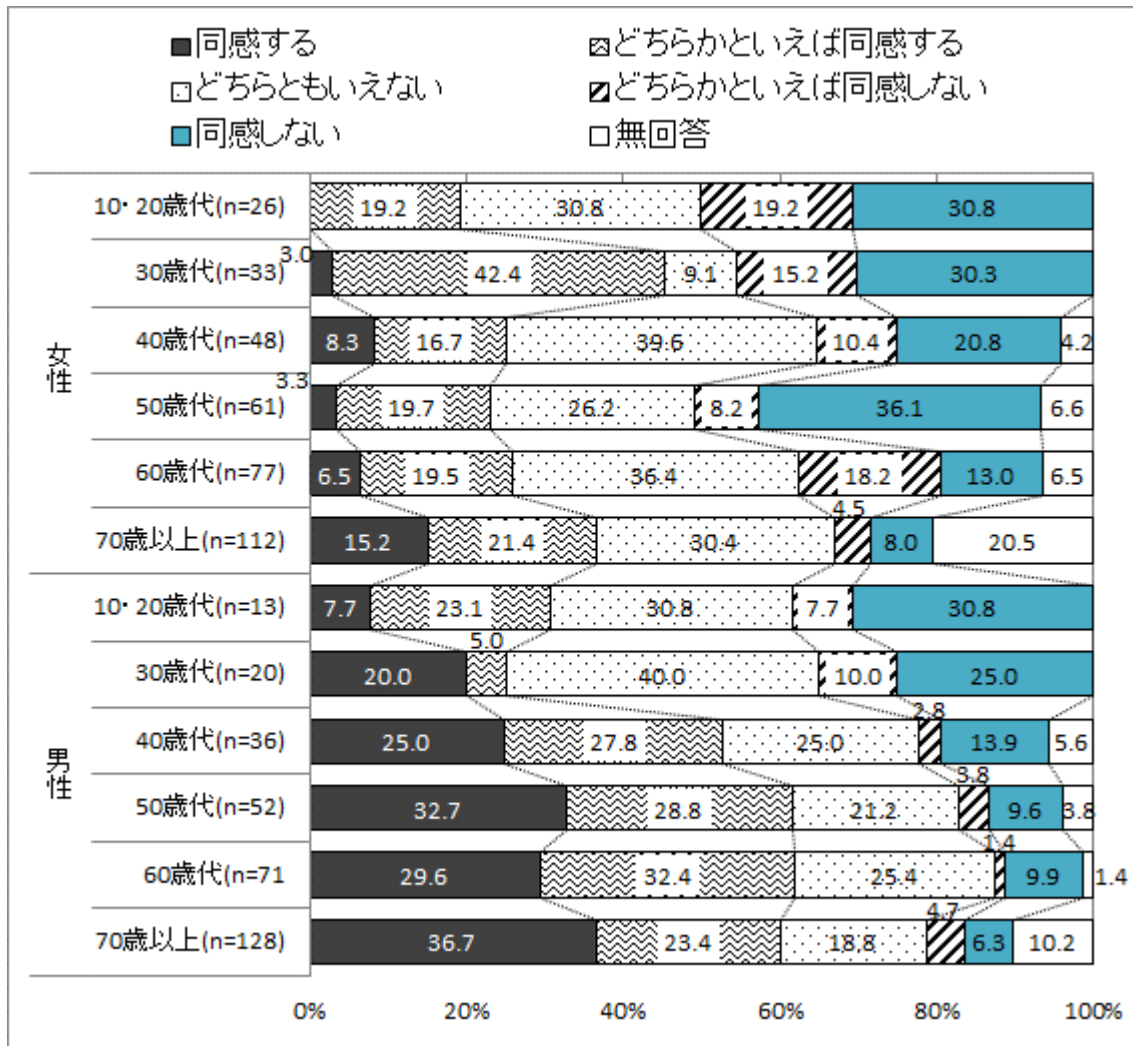
「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい」という考え方について聞いたところ、全体では、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合が42.8%で、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の22.9%を上回っている。また、「どちらともいえない」が26.8%となっている。

性別で見ると、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合は、男性が56.5%で女性より26.6ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の割合は、若い年代ほど高い傾向がみられ、10・20歳代と30歳代では40%を超えている。

女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てた方がよい

(性×年代別) 単位 (%)

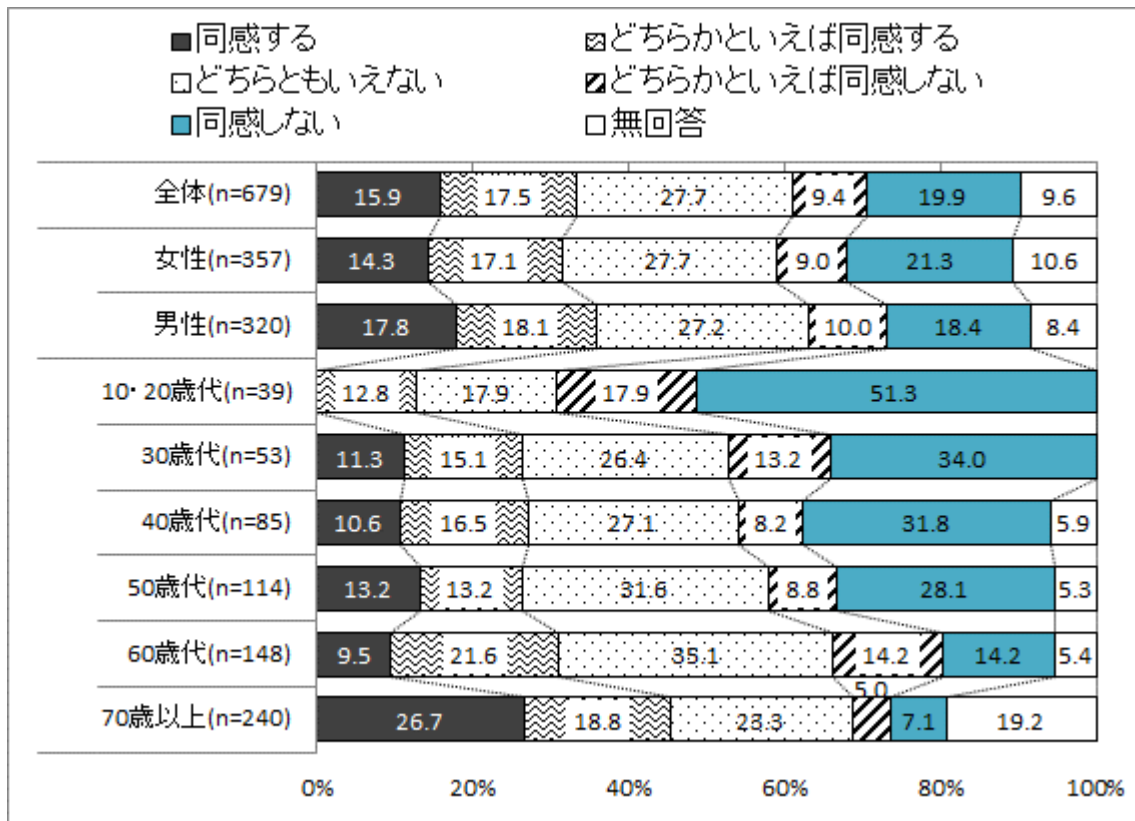


性×年代別で見ると、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合は、女性の30歳代と70歳以上で高いほか、男性では40歳代以上で50%を超えて高くなっており、「同意しない」「どちらかといえば同意しない」の割合は、若い年代で高い傾向となっている。

② 3歳くらいまでは母親が育てたほうがよい。

⇒ 「3歳くらいまでは母親が育てたほうがよい」と考えている方が約33%

3歳くらいまでは母親が育てたほうがよい（全体・性別・年代別） 単位（%）



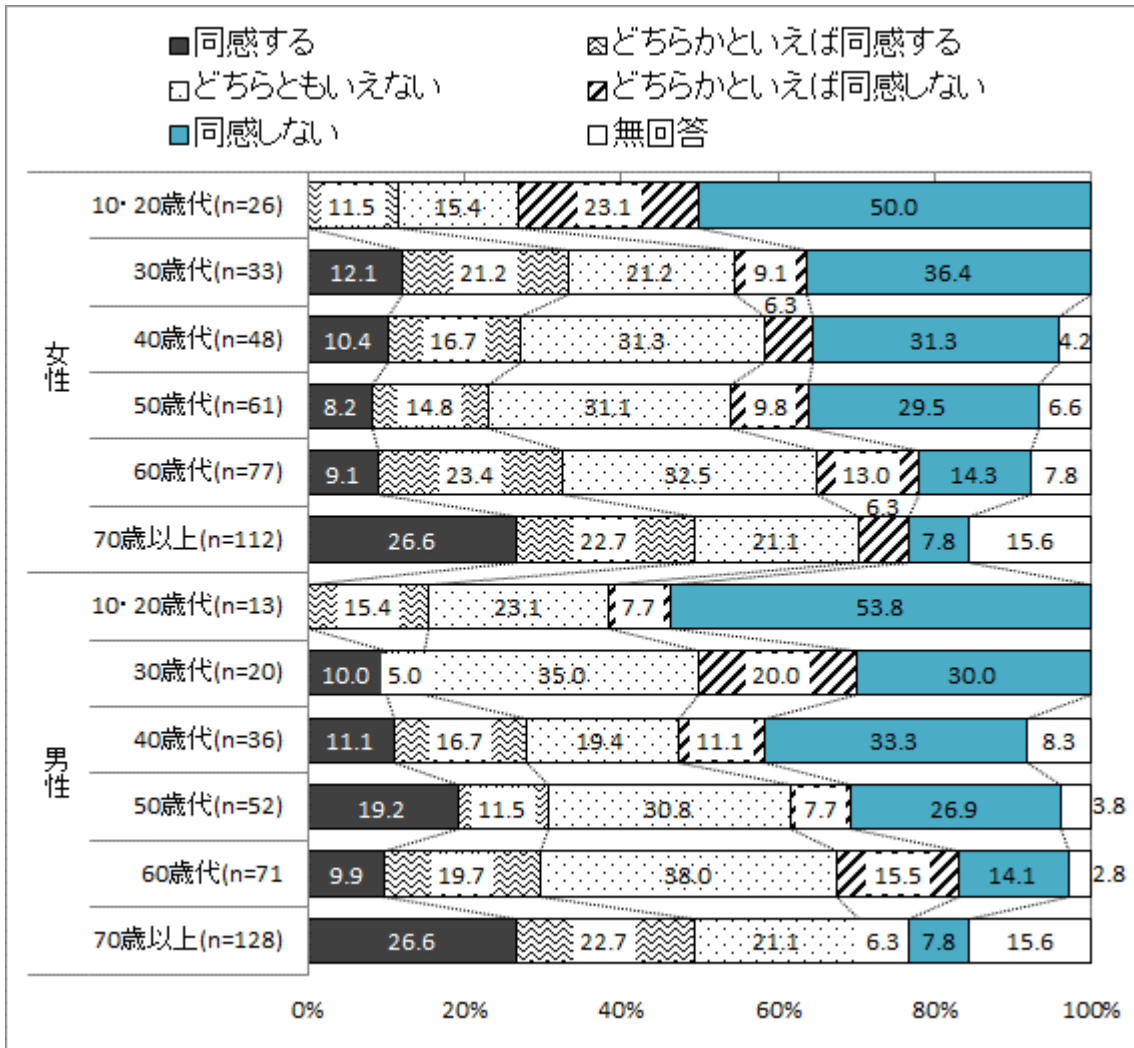
「3歳くらいまでは母親が育てたほうがよい」という考え方について聞いたところ、全体では、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合が33.4%で、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の29.3%を上回っている。また、「どちらともいえない」が27.7%となっている。

性別で見ると、「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合は、女性が31.4%、男性が35.9%となっているが、女性では、「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の割合が30.3%となっており拮抗している。

年代別で見ると、10・20歳代で69.2%となるなど若い世代で「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の割合が高い傾向が見られる。

3歳くらいまでは母親が育てた方がよい（性×年代別）

単位（％）



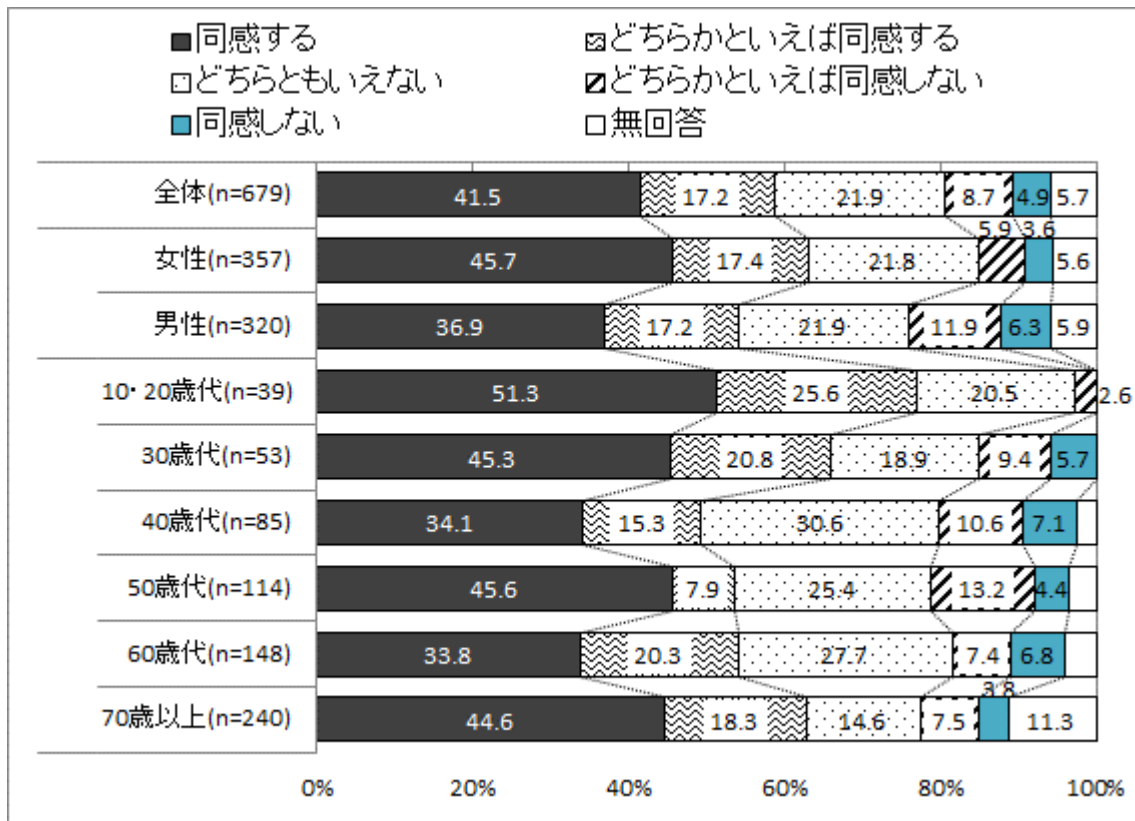
性×年代別で見ると、70歳以上では、男女共に「同感する」「どちらかといえば同感する」の割合がほぼ過半数を占めているが、若い年代になるほど「同感しない」「どちらかといえば同感しない」の割合が高い傾向となっており、特に、10・20歳代の女性では73.1%、男性では61.5%の割合となっている。



③ 男女の区別なく育てたほうがよい。

⇒ 「男女の区別なく育てたほうがよい」と考えている方が約59%

男女の区別なく育てたほうがよい（全体・性別・年代別）単位（%）



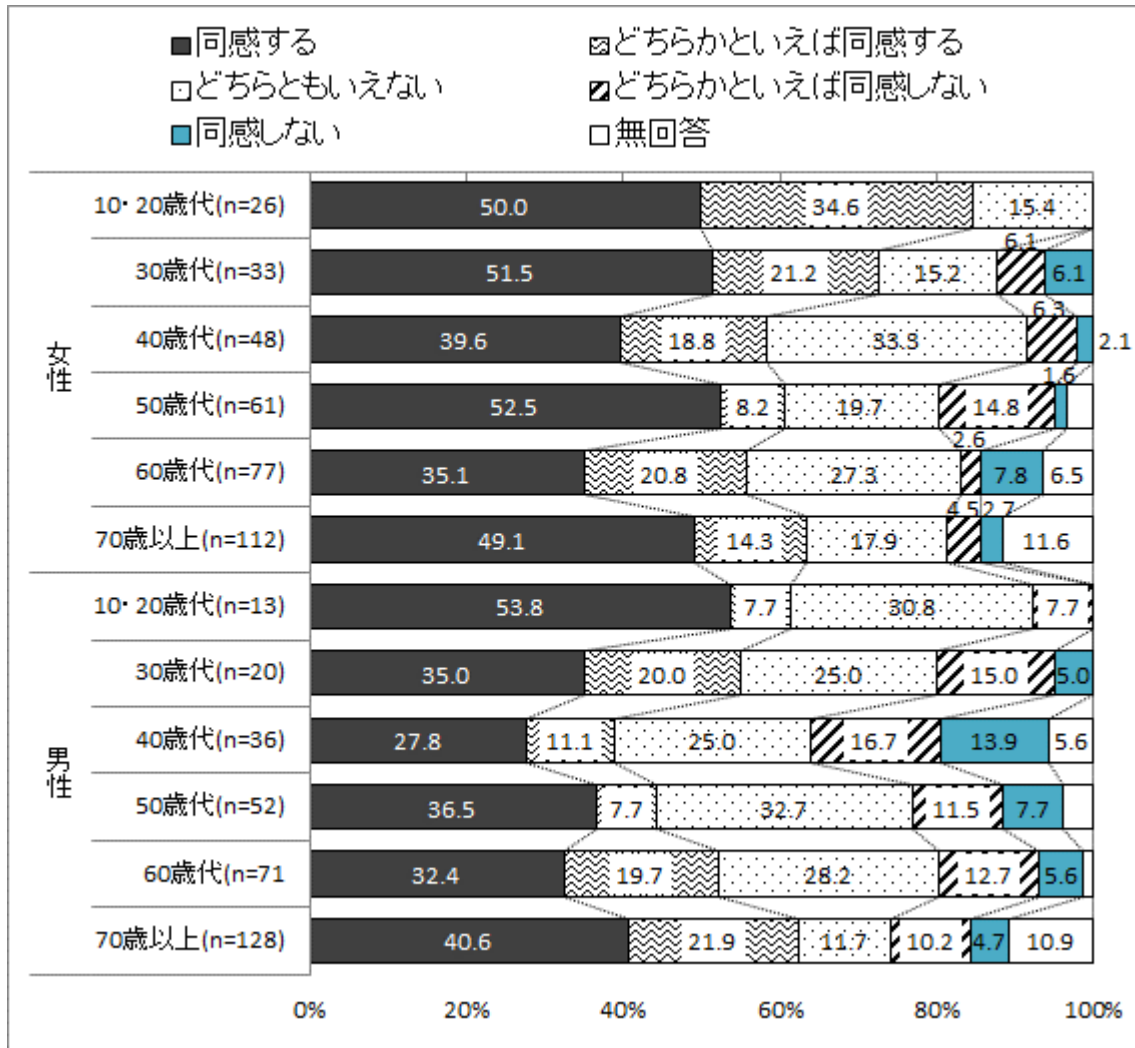
「男女の区別なく育てたほうがよい」という考え方について聞いたところ、全体では、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合が58.7%、「同意しない」「どちらかといえば同意しない」の割合が13.6%、「どちらともいえない」が21.9%となっている。

性別で見ると、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合は、女性が63.1%で男性より9.0ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合は、全ての年代において高い傾向が見られた。

男女の区別なく育てたほうがよい（性×年代別）

単位（％）



性×年代別で見ると、各年代で女性・男性ともに「同意する」「どちらかといえば同意する」の割合が高い傾向となっている。特に、女性では10・20歳代で84.6%、30歳代で72.7%、男性では70歳以上で62.5%、10・20歳代で61.5%と高い割合となっている。